

## 第5部「授業力アップコース」の構築に関する報告

## 1. 流れの整理

昨年度末に文化庁が「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」を発表し、その後引き続いて「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業」の公募が始まった。この開発事業は「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」で示された、日本語教師の養成・研修のプログラムを具体化しモデルとなるカリキュラムを開発させるものであった。

また、文化庁からの情報によれば、近い将来それらのプログラムが何らかの形で資格化され日本語学校や日本語教師に義務付けられる趣旨のものであることが明らかになった。同時にその実施にあたって国費が投じられる見込みであることも明らかになった。つまり、日本語教師の学び直しという研修は、その中核部分が国費によってなされる見込みとなったということである。この研修のことを仮に「公営研修」と呼ぶことにする。

この公営研修は、日本語教師の養成・初任・中堅・主任の全体を範囲としている。そこに国費が投入される場合、同様のプログラムであれば民間の教師研修事業は成立しなくなる。

このことを踏まえて本事業では次の方向転換を行った。

(1) 本事業の成果を公営研修に活用する

(2) 本事業が目指す研修の範囲を公営研修がカバーしない部分へシフトする

(3) この2つの動きを通じて日本語教師の学び直し講座の構築法のモデルを見出す  
なお、本事業の成果の公営研修への活用は、本事業外で行い、必要に応じ本事業へフィードバックするに留める。

具体的には、(1)については、日本語教育振興協会、全国専修学校日本語教育協会、全日本学校法人日本語教育協議会へ昨年度の活動を報告し、成果に興味がないか打診した。結果として、全日本学校法人日本語教育協議会が興味をもたれ、本事業の委員が中堅研修のカリキュラム案と企画を作成して参画することとなった。本事業としてはこれをもって(2)へ移行した。

(2)については、昨年度「公営研修」がカバーしていない研修項目を整理している。それに加えて改めて研修ニーズを調べ、両者をもとに本事業の研修カリキュラムを再構築することとした。すでに昨年度開発した研修コンテンツについては、実証授業を行い研修コンテンツを大量に作成せず活用できる方法を見出すこととした。その上で、本事業終了後の事業化の可能性をさぐる。

(3)については、(1)と(2)を通じて、日本語教師の学び直し講座の構築モデルに有益な情報を抽出する。

## 2. 研修カリキュラムの再構築

### 2. 1 昨年度調査した各校の現場ニーズ

昨年度、各校で主として初級に関して研修のニーズを調査した。その内、すでに研修ビデオに取り入れたものを除いたのが次の項目である。

#### (1) 日本語教授法

##### ○教室のコントロール

- ・だれてきた時に興味を引かせる方法
- ・板書計画
- ・教師が説明しない授業の仕方  
    オープンクエスチョン、クローズクエスチョン  
    学生に話させるテクニック（初級、中級）

##### ○会話

- ・会話テストの評価法

##### ○発音

- ・発音教材を使った授業の進め方  
    毎日10分、メインテキストの前に発音指導をしているが、ただCDを流しているだけの教員がいる。教材通りのこと以外に応用を少ししてあげるだけで、学生の意識が変わる。
- ・ベトナム生の発音指導
- ・発音練習「あめんぼあかいな」

##### ○漢字・語彙

- ・漢字教材を使った授業の進め方  
    漢字圏・非漢字圏ミックスクラスでの初級漢字授業。漢字圏の学生向けと非漢字圏向けの課題をそれぞれ用意し、お互いに支え合いながら進める授業。
- ・漢字2つを使って短文作成

##### ○みんなの日本語の基本技能

- ・キューの出し方（既習語彙を使う＋既習語彙の調べ方）
- ・文型を使ったペアワークの方法
- ・発展練習（特に初級）

- ・練習 B と練習 C の膨らませ方

○みんなの日本語の基本教案

- ・「みんなの日本語」シリーズ 1 課から 50 課
- ・みんなの日本語の 39 課 「原因の『て』」と「ので」の違い
- ・自他の教え方

○中級

- ・「中級から学ぶ日本語」の精読のしかた
- ・中級聴解指導のやり方（聞かせて答えを言うだけではない）
- ・日本留学試験過去問演習の FB のし方（どれを優先してやった方がいいか）

(2) 生活指導

- ・危機管理のチェックポイント
- ・そうじのし方
- ・ぞうきんの絞り方
- ・ゴミの捨て方（分別）
- ・トイレの使い方
- ・避妊の知識

(3) 進路指導法

- ・面接指導法
- ・JLPT とはどのようなものか（こんな人が受ける）
- ・EJU とはどのようなものか（こんな人が受ける）
- ・日本留学試験成績 → 目安になる大学、進学指導
- ・入学から卒業するまでの流れ（レベル、教科書）
- ・大学院指導
- ・大学院に行ける人ってどんな人？
- ・不合格の場合の指導
- ・合格後の手続きの指導

## 2. 2 昨年度の分析による欠落箇所

教科書に欠落している部分は、経験的にしか教えることができないため、結果として研修の対象となる。そこで、本事業で行った中級・初級・漢字の教授法改善から、研修事項として見いだせるものをまとめた。

(1) 中級教授法より

- ・ 初中級の学習者が就職に向けて行ってゆく文化教育
- ・ 初中級の学習者が就職に向けて行ってゆく語彙教育
- ・ 初中級の学習者が就職に向けて行ってゆく表現教育
- ・ 初中級の学習者が就職に向けて行ってゆく行動教育
- ・ これらの基礎となる初級における言語教育と生活指導

(2) 初級教授法より

○基本知識

- ・ 基本文型（名詞文・形容詞文・動詞文）の整理
- ・ ウチ・ヨソ／カミ・シモに関する言語に内在した文化（主に敬語）
- ・ 対話のストラテジーに内在している文化（察しと断られることを嫌がる文化）
- ・ 助詞（格助詞、終助詞）に関する体系的な教育

○基本技能

- ・ 基本的なドリルの仕方（字の入れ方、代入、変換・・・）

○整理の仕方

- ・ 数字の教え方
- ・ 「こ・そ・あ・ど」の入れ方
- ・ 連体修飾の整理（NOUN の NOUN、ADJ イ NOUN、ADJ な NOUN の対比）
- ・ 文末表現に関する整理
- ・ 文の中の情報の配列の仕方
- ・ 副詞に関する整理

(3) 漢字教授法より

○基本知識

- ・ 初級漢字と中級漢字の教え方のポイントの違い
- ・ 漢字を使って「脳内漢字かな変換」させる工夫（初級・中級）

○基本技能

- ・ 絵を使った漢字の教え方
- ・ 漢字のストロークの基本とひらがな・カタカナの関係

○整理の仕方

- ・ 漢字の部品の教え方
- ・ 漢字の部品を組み合わせて字の意味をストーリーで教える教え方

## 2. 3 改めて行ったニーズ調査の結果

文化庁事業にとらわれず、各校において研修の必要性の高いものを改めて調査し直した。その結果は次の通りである。

### (1) 横浜デザイン学院

- ・ビジネス日本語の教員養成
  - ・学習者が就職したがる
  - ・教員もビジネス経験がない場合がある
  - ・非常勤なら、企業ニーズに対応できる可能性（ビジネスチャンスあり）

### (2) 東京国際大学付属

- ・ビジネス日本語
  - ・就職したい韓国・台湾
  - ・N2 ないくらいの日本語、母国でも働いたことがない
  - ・学生の意識改革
- ・大学院指導
  - ・卒論書いてない
  - ・研究計画書かけない
  - ・日本語能力 N1 ある、N2 ない程度
  - ・文系のほうが手がかかる

### (3) カイ日本語スクール

- ・就職
  - ・知識（労働市場）と、ネットワーク（エージェント）と、情報収集（サービス）
  - ・カウンセリング力（学生がなにしたいの？、形にしていく）
  - ・外国人のキャリア支援の勉強会
- ・教材開発力・文法解析力 → 授業を組み立てる

### (4) 共立日語学院

- ・ビジネス（就職）
  - ・N2 以上
  - ・自分自身で就職活動にこぎつける
  - ・情報収集もできない
  - ・外国人が参加するガイダンス、セミナーをおおづかみに知る方法もない
- ・ビジネス日本語の指導

- ・ありものの教科書をつぎはぎで
- ・いいカリキュラムがあれば

## (5) ATOWA

- ・内定研修
  - ・日本語教師が民間で働いたことがあるか？
  - ・実地体験にもとづいたビジネス日本語指導
  - ・就職ガイダンス会社で働いている日本語教師が出てきているそんな人のリサーチ
  - ・卒業生からのリサーチ

## 2. 4 研修項目の統合と突き合わせ

2. 1から2. 3で抽出した項目を統合した。そして、代替の方法がないか検討した。

### (1) 統合した学習項目

#### a. 日本語教授法

##### ①教室のコントロール

- ・だれてきた時に興味を引かせる方法
- ・板書計画
- ・教師が説明しない授業の仕方
  - オープンクエスチョン、クローズクエスチョン
  - 学生に話させるテクニック（初級、中級）

##### ②会話

- ・会話テストの評価法

##### ③発音

- ・発音教材を使った授業の進め方
  - 毎日10分、メインテキストの前に発音指導をしているが、ただCDを流しているだけの教員がいる。教材通りのこと以外に応用を少ししてあげるだけで、学生の意識が変わる。
- ・ベトナム生の発音指導
- ・発音練習「あめんぼあかいな」

##### ④漢字・語彙

- ・初級漢字と中級漢字の教え方のポイントの違い
- ・漢字を使って「脳内漢字かな変換」させる工夫（初級・中級）
- ・漢字のストロークの基本とひらがな・カタカナの関係
- ・絵を使った漢字の教え方

- ・漢字教材を使った授業の進め方
  - 漢字圏・非漢字圏ミックスクラスでの初級漢字授業。漢字圏の学生向けと非漢字圏向けの課題をそれぞれ用意し、お互いに支え合いながら進める授業。
- ・漢字 2 つを使って短文作成
- ・漢字の部品の教え方
- ・漢字の部品を組み合わせて字の意味をストーリーで教える教え方

#### ⑤中級

- ・「中級から学ぶ日本語」の精読のしかた
- ・中級聴解指導のやり方（聞かせて答えを言うだけではない）
- ・日本留学試験過去問演習の FB のし方（どれを優先してやった方がいいか）

#### ⑥日本語文法 基礎理論

- ・中級の基礎となる初級における言語教育
- ・基本文型（名詞文・形容詞文・動詞文）の整理
- ・ウチ・ヨソ／カミ・シモに関する言語に内在した文化（主に敬語）
- ・対話のストラテジーに内在している文化（察しと断られることを嫌がる文化）
- ・助詞（格助詞、終助詞）に関する体系的な教育
- ・文の中の情報の配列

#### ⑦ドリル法

- ・基本的なドリルの仕方（字の入れ方、代入、変換・・・）

#### ⑧学習項目の整理法

- ・文末表現に関する整理
- ・連体修飾の整理（NOUN の NOUN、ADJ イ NOUN、ADJ な NOUN の対比）
- ・数字の教え方
- ・「こ・そ・あ・ど」の入れ方
- ・文の中の情報の配列の仕方
- ・副詞に関する整理

#### ⑨みんなの日本語の基本技能

- ・文型を使ったペアワークの方法
- ・発展練習（特に初級）
- ・練習 B と練習 C の膨らませ方
- ・キューの出し方（既習語彙を使う＋既習語彙の調べ方）

#### b. 授業の組み立て・カリキュラムデザイン

- ・教材開発力・文法解析力 → 授業を組み立てる
- ・みんなの日本語の基本教案
  - ・「みんなの日本語」シリーズ各課のポイント



- ・MN39 課 「原因の『て』と「ので」の違い
  - ・自他の教え方
- c. 生活指導法
  - ・中級の基礎となる初級における生活指導
  - ・危機管理のチェックポイント
  - ・そうじのし方
  - ・ぞうきんの絞り方
  - ・ゴミの捨て方（分別）
  - ・トイレの使い方
  - ・避妊の知識
- d. 進路指導法
  - ・基本的な知識
    - ・入学から卒業するまでの流れ（レベル、教科書）
    - ・JLPT とはどのようなものか（こんな人が受ける）
    - ・EJU とはどのようなものか（こんな人が受ける）
    - ・日本留学試験成績 → 目安になる大学、進学指導
    - ・合格後の手続きの指導
    - ・不合格の場合の指導
  - ・面接指導法
  - ・大学院指導
    - ・大学院に行ける人ってどんな人？
    - ・卒論書いてない
    - ・研究計画書かけない
    - ・日本語能力 N1 ある、N2 ない程度
    - ・文系のほうが手がかかる
    - ・面接指導法
- e. 就職日本語
  - ・中級キャリアアップ教授法
    - ・初中級の学習者が就職に向けて行ってゆく文化教育
    - ・初中級の学習者が就職に向けて行ってゆく語彙教育
    - ・初中級の学習者が就職に向けて行ってゆく表現教育
    - ・初中級の学習者が就職に向けて行ってゆく行動教育
  - ・ビジネス日本語の教員養成
    - ・学習者が就職したがる

- ・非常勤なら、企業ニーズに対応できる可能性（ビジネスチャンスあり）
- ・ビジネス日本語
  - ・就職したい韓国・台湾
  - ・N2 ないくらいの日本語、母国でも働いたことがない
  - ・学生の意識改革
- ・ビジネス日本語の指導
  - ・ありものの教科書をつぎはぎで
  - ・いいカリキュラムがあれば
- ・ビジネス（就職）
  - ・N2 以上
  - ・自分自身で就職活動にこぎつける
  - ・情報収集もできない
  - ・外国人が参加するガイダンス、セミナーをおおづかみに知る方法もない
- ・就職
  - ・教員もビジネス経験がない場合がある
  - ・日本語教師が民間で働いたことがあるか？
  - ・実地体験にもとづいたビジネス日本語指導
  - ・知識（労働市場）と、ネットワーク（エージェント）と、情報収集（サービス）
  - ・カウンセリング力（学生がなにしたいの？、形にしていく）
  - ・外国人のキャリア支援の勉強会
- ・内定研修
  - ・就職ガイダンス会社で働いている日本語教師が出てきているそんな人のリサーチ
- ・卒業生からのリサーチ

## （２）学習項目に関する代替的な研修の方法

a. 日本語教授法	養成講座、初任研修
①教室のコントロール	一部初任研修
②会話	不十分、一部初任講座・中堅研修
③発音	不十分、一部養成講座
④漢字・語彙	不十分、一部初任研修
⑤中級	不十分、一部初任研修・中堅研修
⑥日本語文法 基礎理論	一部 MISJ の Udemy 講座
⑦ドリル法	不十分、一部養成講座
⑧学習項目の整理法	一部 MISJ の Udemy 講座
⑨みんなの日本語の基本技能	不十分、一部養成講座

b. 授業の組み立て・カリキュラムデザイン	不十分、中堅研修
c. 生活指導法	事務研修、aの中に組込のがよい
d. 進路指導法	初任・中堅研修、就職は不十分
e. 就職日本語	N2レベルのものはある 中級レベルはなし

a. 日本語教授法については、全体を網羅する必要はない。a.の全体は養成講座および「公営研修」の初任研修にてカバーされる。非漢字圏に特化したものであれば必要性が高い。既存の教科書の欠落部分であれば必要性が高い。

b. 授業の組み立て・カリキュラムデザインについては、抽象度の高いものは「公営研修」の中堅・主任研修でカバーされる。養成講座で教えない「みんなの日本語」の良質な教え方であれば必要性が高い。

c. 生活指導法については、事務方が行うようなものは日振協の事務研修でカバーされる。授業の中で展開する方法については必要性が高い。

d. 進路指導法については、初任研修と中堅研修でカバーされる。但し、具体的な進学指導法については必要性が高い。

e. 就職日本語については、N2レベル以上のものはある。初級終了後の中級学習者を対象としたものがない。

### (3) 学習項目に関する研修提供の可能性

(2)で代替的な方法がない、または不十分なものについて、本事業参加者で提供可能なものを検討した。

岩崎美紀子委員	ドリル訓練法、日本語に潜む文化
平岡佳梨加委員	非漢字圏向け教授法とりわけ学習者中心の教授法群 みんなの日本語の教授法群 生活指導を授業内で展開する方法 就職日本語

大山・影嶋・肥田野・大和・北出委員 就職日本語

平岡佳梨加委員の非漢字圏向け教授法とりわけ学習者中心の教授法群は、初級の教授法を補完するものであり、就職日本語にも応用可能な方法であった。

### (4) カリキュラムの方針

(1)、(2)、(3)を踏まえて、次の研修コースが見した。右側は(2)の学習項目である。

- a. 就職日本語コース  
中級レベルの就職指導とキャリア指導に使えるもの。

学習者中心の教授法群との連携を考える。

e. 就職日本語

a ⑤中級

d. 進路指導

b. 授業レベルアップコース

主として初級レベルの非漢字圏に向けた指導に使えるもの。

- ・授業法の改善方法に気づく
- ・初級教科書のうまい教え方がわかる

b. 授業の組み立て・カリキュラムデザイン

a ⑨みんなの日本語の基本技能

a ⑥日本語文法 基礎理論（一部）

a ⑦ドリル法

a ⑧学習項目の整理法（一部）

- ・学習者中心の方法で初級教科書を補完する教え方がわかる

a ①教室のコントロール

a ③発音

a ④漢字・語彙

c. 生活指導法

(5) 開発の優先順位

開発の優先順位を考えた。

a. 就職日本語コース

学び直し講座の中心テーマとなる。

優先して開発する。

今年度、学習者向け教材を詰め、次年度研修教材を構築する。

b. 授業レベルアップコース

- ・授業法の改善方法に気づく

昨年度開発した研修ビデオを活用してこの目的に使う方法を見出す。

- ・学習者中心の方法で初級教科書を補完する教え方がわかる

今年度開発する。

- ・初級教科書のうまい教え方がわかる

ドリル訓練法については本年度開発する。

その他の部分については、ペーパー教材を中心とする。

映像化しないとわかりにく部分についても昨年度の研修ビデオを活用する。

どうしても残る部分のみ追加的に研修ビデオを作成する。

## 2. 5 新しい研修カリキュラム

### (1) 就職日本語コース

就職日本語コースについてくわしくは、第6部にて述べる。

目標： 就職指導と進学指導の違いを知って就職日本語の教授法がわかる  
各課の教え方のポイントがわかる

対象： 初任教师・中堅教師・主任教師

レベル： 中級

授業： メインテキスト

教育内容	時間数	研修ビデオ	備考
就職日本語の教授法	4		
イントロダクション	2	1	
各課のポイント	2		
-----			
利用する研修ビデオ			
就職日本語イントロダクション		1	
合計		0	

(2) 授業レベルアップコース

a. 教授法の改善方法に気づく

目標： 日本語教師間の信頼関係づくり

自分の教授法に気づく

よい教授法を取り込んで自分の教授法を改善する

対象： 初任教师

レベル： 初級

授業： メインテキスト

教育内容	時間数	研修ビデオ	備考
教授法の改善方法に気づく	6		
模擬授業の相互レビュー	2		
(授業実践)	(4~40)		
研修ビデオチェック	2	15	研修ビデオ15本 (昨年度開発)
(授業実践)	(4~40)		
解説付き研修ビデオチェック	2	15	研修ビデオ15本 (昨年度開発)
(授業実践)	(4~40)		
-----			
利用する研修ビデオ			
・ 導入の3パターン		3	昨年度開発
・ ウタカラ3パターン		3	昨年度開発
・ 授業前の準備・教材研究		2	昨年度開発
・ ウォーミングアップ		1	昨年度開発
・ ドリルのポイント		1	昨年度開発
・ 会話の進め方		1	昨年度開発
・ て形の定着		1	昨年度開発
・ 漢字の書き方		1	昨年度開発
・ 語彙の覚えさせ方		1	昨年度開発
・ 中級文型の導入		1	昨年度開発

b. 学習者中心の方法で初級教科書を補完する教え方がわかる

目標： 非漢字圏学習者の弱点を補強する教授法を身につける

学習者中心の教授法を身につける

対象： 初任教师・中堅教師

レベル： 初級

授業： 補完授業

教育内容	時間数		備考
学習者主体の授業法	10		
イントロダクション	2		
(ビデオ受講)	4	12	研修ビデオ12本(今年度開発)
フィードバック1	2		
(授業実践)	(30~150)		
フィードバック2	2		
-----			
利用する研修ビデオ			
・マイ漢字		1	今年度開発
・脳内漢字かな変換理論(理論)		1	今年度開発
・初級からの漢字教育		1	今年度開発
・漢字教育における初級と中級の違い(理論)		1	今年度開発
・文字のもと		3	
・発音指導(アンドロイドメソッド)		1	今年度開発
・イメージマップ		1	今年度開発
・トピック発表		2	今年度開発
・聞いて書く読解		1	今年度開発
・N2これだけ漢字		1	今年度開発
・異文化空間活動		2	今年度開発

c. 初級教科書のうまい教え方がわかる

目標： 非漢字圏学習者の弱点に対応したみんなの日本語の教授法を身につける

対象： 初任教師・中堅教師

レベル： 初級

授業： メインテキスト

備考： カイ日本語スクール大山先生の教案指導カリキュラムをモデルとして、「みんなの日本語」について研修プログラムとしたもの

教育内容	時間数	研修ビデオ	備考
みんなの日本語の教授法改善	130		
イントロダクション	5	18	
(練習)	(10-20)	16	
教案指導 1 回目	50		
教案指導 2 回目	50		
研修ビデオと教案例の提示	(25-50)	6	
教案指導 3 回目	25		
-----			
利用する研修ビデオ			
ドリル訓練		16	今年度開発
導入パターン		3	昨年度開発
ウタカラ		3	昨年度開発
みんなの日本語の基本技能		1	
初級生活技能		1	



### 3. 普及活動・実証授業

#### 3. 1 研修ビデオの自校利用

自校で必要な研修ビデオを自校で使うというのは、制作の目的通りのことであり、無論成立する。昨年度制作した研修ビデオの内、カイ日本語スクールと東京国際大学付属の制作のものは、それぞれの学内研修にて利用された。作った本人が利用して研修するので、利用方法なども説明が不要である。

以下、カイ日本語スクールが作成した研修ビデオを、自校で自校の新人教師を対象に利用した時の指導事例である。

#### 教案指導事例

カイ日本語スクール 大山

##### 【教案指導の流れ】

- ① 教案指導 1 回目 (対面 1 時間)
- ↓
- ② 教案指導 2 回目 (対面 1 時間)
- ↓
- ③ 研修用ビデオと教案例の提示
- ↓
- ④ 教案指導 3 回目 (対面またはメール)

##### ①教案指導 1 回目 (対面 1 時間)

研修と授業見学を終えた講師は担当する授業の教案を作成し指導担当者に提出する。教案を指導を対面で行う。1時間以内。

まずはひとつの学習項目の導入、確認、ドリル、練習をチェックする。

場合によっては、その場で模擬を確認する。

指導点を伝え、その部分の改善とその他の学習項目も同様に再点検し再提出を依頼する。

##### 第1チェックポイント

- ・到達目標が明確に言語化されているか。
- ・到達目標が適切であるか。
- ・授業全体の流れがコースで決められた手順に沿っているか。
- ・導入が完結で的を得ているか。

- ・視点を変えた導入を複数準備しているか。
- ・1つの導入に対して「理解の確認、発話」を組み込んでいるか。
- ・講師の発話量に無駄がなく、学生に十分な発話機会が準備されているか。
- ・ドリル、練習の内容が、到達目標にリンクしているか。
- ・練習の指示や手順に無理はないか。

## ②教案指導2回目（対面1時間）

2回目の教案チェックでは、前回の指導点が反映されているか確認する。

前回取り上げた以外の学習項目もその反映がなされているか確認する。

必要な場合は模擬授業で動きを確認する。

仕上がりが良い場合は、部分修正をしたものを提出させ、授業実施の許可を出す。

第2チェックポイント

- ・全学習項目において導入から練習までの流れが適正か。
- ・到達目標の到達度を評価する活動が適切か。
- ・活動全てが到達目標に紐付いているか。
- ・時間配分は適切か。
- ・時間に余裕があった場合の追加の応用練習が準備されているか。
- ・想定されうる質問に対して対応があるか。

## ③研修用ビデオと教案例の提示

②の指導の際、①で指導したポイントの反映が不十分、または改善がなされていない場合は、研修用ビデオの視聴と教案例を参考の上、教案の再提出を求める。

研修用ビデオと教案には第1チェックポイントの内容がまとめられている。

## ④教案指導3回目（対面またはメール）

再提出された教案を確認し、対面またはメールでフィードバックを行う。

この時点で、第1チェックポイントの改善の成果はほぼ見られる。

### 3. 2 中堅研修へのノウハウの提供

平成30年3月に文化庁より「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」が出され、その後引き続いて「日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業」が公募された。本事業の成果を普及すべく、以下の団体に働きかけた。

- ・日本語教育振興協会
- ・全日本学校法人日本語教育協議会
- ・全国専修学校日本語教育協会

結果として、全日本学校法人日本語教育協議会が興味を示され、本事業の委員が中堅研修の企画とカリキュラムの原案を作成して提供した。なおこの活動は昨年度の事業が終了し今年度の事業が始まるまでに行われたため本事業の事業外の活動である。但し、結果として本事業で目指していた活動が実践され、また活動を通じて本事業に役立つ様々な経験が得られたので、その要点を整理して示しておくことにする。

#### (1) カリキュラム案作成

中堅研修については、「求められる資質・能力」と「教育内容」だけが示され、カリキュラムは提示されなかった。そこで、次のようなプロセスを経て、カリキュラム案を作成した。

##### a. 前提

外部基準として、文化庁の報告書にある以下の項目を前提とした。

##### 人材の区分（報告書16ページ）

日本語教師として初級から上級までの技能別指導を含む十分な経験（2400単位時間以上の指導経験）を有する者。

※当該活動分野において3～5年程度の日本語教育歴にある者。

##### 人材の専門性（報告書17ページ）

○日本語教育に関する専門的な教育を受け、第二言語としての日本語を教える体系的な知識・技能及び十分な経験を有し、日本語教師としての高度な専門性を持っている。

○国内外の日本語教育現場で学習者に応じた日本語教育プログラムを策定し、体系的・計画的に日本語指導を行うことができる。

##### 養成・研修（報告書30ページ）

##### －受講対象

○各活動分野において初級から上級までの技能別指導を含む十分な経験（2400単位時間以上※）を有する者

##### －養成・研修のあり方

○活動分野を限定せず、分野横断的に必要とされる教育内容を扱うと共に、所属

機関・組織を超えて、日本語教育全体に対する視野を養うための実践課題持ち寄り型といった現場の課題に取り組む形式の研修を大学等の教育・研修機関において受講

ここから、日本語学校の現場における「頼りになる専任」「外に出しても恥ずかしくない副主任」あたりのイメージの人材が想定されると理解した。

## b. カリキュラム原案

この人材像のスキルの状態、この人材に不足する知識・経験から、東京国際大学付属の肥田野委員がカリキュラムの原案を作成した。現場のニーズを元に研修の要件を定義した形になる。

### 1. 教務・授業関連

- ・初・中・上級どのレベルでも授業ができる
- ・勤務校の教育カリキュラムを把握している
- ・学習者の属性やニーズに合わせたコースデザインができる
- ・勤務校の課題を把握し、解決案を提案できる
- ・勤務校の定期テストに関して方針を把握し、テストを作成することができる
- ・教材についての知識があり、新しい教材に関する情報収集ができています
- ・各種試験（JLPT、EJU、BJT）の傾向を把握している
- ・ある程度材料を自分で固めた上で、授業内容について提案できる
- ・学習者が日本語を学習する上で起こりうる母国語の干渉が予測できる
- ・進学や就職を目指す学習者が手続き上、必要なことを把握している
- ・学習者の学習上の弱点を把握し、その人に適した学習方法が助言できる

### 2. 行事

- ・勤務校の方針を踏まえた行事の企画ができる
- ・行事運営のために必要な物や人材を提案できる
- ・危機管理を念頭に置きながら、安全な行事進行の企画・運営ができる

### 3. 教務事務

- ・ICTを利用して、教務の管理や教材の運用ができる
- ・勤務校の教育システムを把握している
- ・勤務校の学習者数、国籍別人数をある程度把握している
- ・同僚や事務局との迅速な連絡のやり取りができる
- ・留学生の在留資格に関する制度を把握している

#### 4. マネジメント

- ・勤務校の管理体制を把握している
- ・教務の管理に関して、自分の役割を理解し、他教員と連携したマネジメントができる
- ・勤務校のカリキュラムやコースについて、初任者（或いは非常勤教員）に説明できる
- ・他教員との報・連・相を怠らない
- ・外部の研修会等に積極的に参加し、他校との交流を図ることができる
- ・他の教員と建設的な意見交換ができる
- ・留学生の問題や日本語教育に関する施策に関して、情報収集ができています

#### 5. 人格

- ・学習者と信頼関係を築き、その人の目標に沿った助言ができる
- ・他の教職員と協力的に業務を遂行しようとする
- ・外部の関係者と友好的な関係が築ける

c. カリキュラム原案の脹らませ

この時点で、ターゲットして専任だけでなく、ベテランの非常勤もありえるのではないかと、という話になった。そこで、両方をターゲットとして想定し、各校からアイデアを出しイメージを脹らませた。久留米ゼミナールの大和委員、横浜デザイン学院の影嶋委員などが脹らませた。

	非常勤のベテラン日本語教師へステップアップ	日本語学校の中堅専任としてステップアップ
前提条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初・中・上級どのレベルでも授業ができる</li> <li>・各種試験の対策授業ができる</li> <li>・授業の腕を磨いてゆく（学生の生活や進路にはあまり興味がない。他の教師の指導には興味がない。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初・中・上級どのレベルでも授業ができる</li> <li>・各種試験の対策授業ができる</li> <li>・担任業務ができる</li> </ul>
1. 教務・授業関連		<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務校の教育方針に基づいた授業や指導ができる</li> <li>・勤務校の教育カリキュラムを把握している</li> <li>・勤務校の課題を把握し、解決案を提案できる</li> <li>・勤務校の定期テストに関して方針を把握し、テストを作成することができる</li> <li>・学習者の属性やニーズに合わせたコースデザインができる</li> </ul>
	・初・中・上級で複数のメインテキストを経験している	
	・教材についての知識があり、新しい教材に関する情報収集ができています	(いろんな先生から情報収集できる)
	・各種試験 (JLPT、EJU、BJT) の傾向を把握している	(いろんな先生と連携して対策授業ができる)
	・学習者の学習上の弱点を把握し、その人に適した学習方法が助言できる	(いろんな先生と連携して学習指導ができる)
	・ある程度材料を自分で固めた上で、授業内容について提案できる	(いろんな先生と連携して授業内容を調整できる)
	・学習者が日本語を学習する上で起こりうる母国語の干渉が予測できる	(いろんな経験や論文から情報収集できる)
		・進学や就職を目指す学習者が手続き上、必要なことを把握している
		・進路指導のスケジュールや合格ラインを把握し、逆算して指導できる。
		・学生募集や学校の提携関係を踏まえて進路指導ができる
	・学会に参加し、発表できる	・外部の研修会等に積極的に参加し、他校との交流を図ることができる
		・勤務校のカリキュラムやコースについて、初任者(或いは非常勤教員)に説明できる
	・養成講座の講師を務められる	・新人の授業の助言・指導ができる
	・授業のし方について、客観的に評価・伝達できる	・授業のし方について、客観的に評価・伝達できる

	非常勤のベテラン日本語教師へステップアップ	日本語学校の中堅専任としてステップアップ
2. 行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行事の引率ができる</li> <li>・ 行事を盛り上げられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勤務校の方針を踏まえた行事の企画ができる</li> <li>・ 効率的な行事の運営方法がわかっている</li> <li>・ 行事と授業を接続することができる</li> <li>・ 行事運営のために必要な物や人材を提案できる</li> <li>・ 危機管理を念頭に置きながら、安全な行事進行の企画・運営ができる</li> </ul>
3. 教務事務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICTを利用して、教務の管理や教材の運用ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勤務校の図書や教材・副教材・ファイルなどを把握している</li> <li>・ 作業効率がよくなる段取りを考えてから作業する</li> <li>・ 同時並行でできるようになる段取りを考えてから作業する</li> <li>・ テストの採点が速くて正確</li> <li>・ 勤務校の教育システムを把握している</li> <li>・ 勤務校の学習者数、国籍別人数をある程度把握している</li> <li>・ 同僚や事務局との迅速な連絡のやり取りができる</li> <li>・ 留学生の在留資格に関する制度を把握している</li> </ul>
4. マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生になめられずこびずに学生を統率できる</li> <li>・ 学生のこころのゆれを感じられる</li> <li>・ 他教員との報・連・相を怠らない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勤務校の管理体制を把握している</li> <li>・ 教務の管理に関して、自分の役割を理解し、他教員と連携したマネジメントができる</li> <li>・ 学生のこころを動かせる</li> <li>・ 他の教員と建設的な意見交換ができる</li> <li>・ 留学生の問題や日本語教育に関する施策に関して、情報収集ができています</li> </ul>
5. 人格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習者と信頼関係を築き、その人の目標に沿った助言ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勤務校の教育方針に基いて、学習者を指導できる。</li> <li>・ ニコニコ前向きでネガティブトークが少ない</li> <li>・ 他の教職員と協力的に業務を遂行しようとする</li> <li>・ 外部の関係者と友好的な関係が築ける</li> </ul>

d. 文化庁基準との照合

ア)「求められる資質・能力」との対応

文化庁のいう「求められる資質・能力」から演繹的にカリキュラムを作成できないかも検討した。カイ日本語スクールの講師レベルの基準を元に、大山委員が作成した。

講師レベル基準	
Senior Teacher レベル	レベルを問わず授業実施が可能。学校の教育方針をよく理解しており、授業技術についてもほぼ問題がない。これまでの経験を活かし、学校にカリキュラムや教材に関する提案ができ、校内での取組みでは中心的な役割を担うことができる。外部との共同プロジェクトにも学校代表として参加可能なレベル。
Regular Teacher レベル	レベルを問わず授業実施が可能であるが、授業技術については、改善すべき課題がある。上級選択授業等、学習者の目標、目的に合わせた授業開発が枠組みから考案できる。授業で行った工夫を理論と結びつけ、その効果について根拠を示すことができる。実践研究の実施が可能なしレベル。
Regular Instructor レベル	ある範囲のレベルにおいて授業実施が可能。中級レベルの技能別授業、プライベート授業等は、学習者のレベルや目的に合わせた教材を選ぶことができ、ある程度の枠組みがあれば作成も可能。中級レベル以上の語彙、表現等の分析はまだ不十分な点もあるが、研修を受けるなどして自律的に改善して行くことができる。
Instructor レベル	限定されたレベルにおいて、一通りの授業が行える。説明、練習方法など基本的な授業技術に改善すべき課題がある。課題化されたことは、教務と相談しながら改善策を検討した上で、一定期間内(半年以内)に解決することができる。

中堅講師 (Senior Teacher) に求められる能力・具体的行動・知識・態度

必要とされる能力	具体的行動	教育区分	動に必要な知識 (表5のとおり)	スとなる資質や態度 (表5の通り)	
プログラムデザイン力 多様性への対応力	ニーズ把握力 指導計画能力	①②③④⑤⑥⑩⑪	(1)日本語教育プログラムを策定する上で必要となる知識を持っている。  (2)国内外の外国人の状況や日本語教育施策に関する最新の知識を持っている。	(1)日本語教育の専門家(中堅)として、日本語教育の社会的意義についての自覚と情熱を有し、自身の実践を分析的に振り返るとともに、新しい知識を習得しようとするなど、常に学び続けようとする。  (2)日本語教師(初任)や日本語学習支援者に対して、振り返りや学びの機会を積極的に提供しようとする。	
	指導計画能力				(2)日本語教育プログラムの目標に応じた学習者の学習時間、到達目標に合致した教材を選択・作成できる。
	指導計画能力 教材についての知識				(3)日本語教育プログラムの目標に応じた学習者の学習時間、到達目標に合致した教材を選択・作成できる。
日本語指導力 PCDAを回せる力 アセスメント力	授業展開力 インタラクション能力 革新力	⑦⑧⑨⑫⑬⑭⑮	握・分析し、適切な学習指導を行うための知識を持っている。  (4)教材開発・編集・改善に必要な知識を持っている。	(3)学習者や他の日本語教師とともに学び合い、成長していこうとする。  (4)学習者が学びに向かえるように様々な方策を用いて、ともに課題解決に当たろうとする。	
	追加事項 キャリア支援 (進学、就職) 協働型学習 文化体験、行事				
社会につなげる力 コーディネーション力 ネットワークング力	追加事項 キャリア支援 (進学、就職) 協働型学習 文化体験、行事	①②③④⑤⑥⑩⑫ ⑨カウンセリング ⑩ネットワークング その他：キャリアコンサルテーション	6)教室内外の関係者と学習者をつなぎ、学習者の社会参加を促進するための教育環境のデザインを行う上で必要となる知識を持っている。	(5)教育実践や課題、成果等を記録・発信し、教育実践の質的向上に生かそうとする。  6)異なるピリーフを持つ関係者と円滑な関係を構築しながら、協力的にプログラムを運営していこうとする。	
	追加事項 キャリア支援 (進学、就職) 協働型学習 文化体験、行事				
教師育成の支援 メンターとしての能力 コーチング力	(5)日本語教師(初任)及び日本語学習支援者に適切な助言をすることができる。	⑦⑧⑨⑫⑬⑭⑮ ⑩カウンセリング その他：コーチング	7)日本語教師(初任)及び日本語学習支援者に適切な助言を行う上で必要となる人材育		
マネジメント能力 専任教師として必要なもの	追加分	ビジネススキル			

抽象度が高く、なかなか現場のニーズとどう対応しているのか見通せないとの意見が出た。

カリキュラムを授業などに教務に関係する部分と、進路指導や学校行事運営などの学務に関係する部分に分けると、教務に関する部分については、ある程度見通せるのではないかとこのことで落ち着いた。



イ)「教育内容」との対応

また、文化庁の「教育内容」の抽象度を下げて、現場の活動とどのように対応しうの  
かを検討した。

文化庁大分類	文化庁小分類	内容
【社会・文化・地域】	①世界と日本	世界の時事問題の情報収集ができる
	①世界と日本	学習者の出身国のニュースや災害情報を知る
	②異文化接触	海外での体験を記録しておいたり、積極的に体験談を見聞きしたりする。
	②異文化接触	学習者のふるまいから気づいた学習者の国の文化および日本の文化についてメモを取る
	②-1日本の在留外国人施策・制度	関係省庁による在留外国人施策を把握している
	②-2関係省庁による日本語教育施策	関係省庁による本語教育施策を把握している
【言語と社会】	④言語と社会の関係	学習者が必要な役所での手続きについて知っている
	④言語と社会の関係	不動産屋での手続きについて知っている
	⑤-1言語使用と社会	役所や不動産屋等、社会生活において学習者が必要な会話を適当な時期に適切に教えられる
	⑤-2言語使用と社会	学習者が希望する進学・就職などの進路に合わせ、キャリア教育のタイミングや内容を考え、実践できる。
【言語と社会】	⑥異文化コミュニケーションと社会	出身国の文化・習慣と日本での違いについて知っている
	⑧言語習得・発達	学習者の自己紹介が、初級→上級へ進むにつれて進化するよう指導できる
	⑨異文化理解と心理	学習者が直面する日本社会内での意識の葛藤を理解し、学習者への配慮ができる。(学校、アルバイト、生活)
【言語と教育】	⑪異文化間教育とコミュニケーション教育	学習者の出身国の文化および学習者の性格を踏まえ、日本社会、日本文化を理解し、異文化間摩擦を起こさないコミュニケーション教育ができる。
	⑫言語教育と情報	日本語教育に関するICT教材の動向について知識をもっている
	⑫-1日本語教育プログラムにおけるICTの活用	授業および授業準備にICTを使える
	⑫-2著作権	著作権についての知識をもっていて、違法行為をしない
【その他】	⑩コミュニケーション能力	いつもニコニコ前向きでネガティブトークしない
	⑩コミュニケーション能力	いろんな人に声がけし情報収集・発信している
	・マネジメント能力(セルフマネジメント)	仕事を抱え込みすぎない
	・マネジメント能力(セルフマネジメント)	忙しくとも授業準備して授業に臨む
	・マネジメント能力(チームマネジメント)	休講で穴の空いた授業に最小限の準備で穴埋めできる
	・マネジメント能力(チームマネジメント)	他の教員や事務員と仲良くチーム作りができる
	・マネジメント能力(チームマネジメント)	他の専任や非常勤を動かして行事が推進できる
	・マネジメント能力(ラーニングマネジメント)	他の専任や非常勤を動かして授業が推進できる
	・事務能力	業務の優先順位を把握し、業務的なスケジュールを組み立て、遂行できる。
	・管理能力	コース、クラス、学校運営に問題意識をもって日ごろから気を配ることができる。
	・人材育成能力	コーチング能力があり、初任教員の教案、授業に対し、適切な指導ができる。
	・ネットワークング力	他の教職員と協力的に業務を遂行しようとする
	・ネットワークング力	外部の関係者と友好的な関係が築ける

e. 科目割の作成

ア) 日本語教育の特徴の整理

同様のカリキュラムを大学の学会が提出することが予想されたので、大学における日本語教育と日本語教育における日本語学校の違いについて整理した。平岡佳梨加委員から次の表が提示された。

中堅日本語教師に必要なこと	種類	日本語学校	大学
<b>進学について</b>			
学生の日本語能力を理解し進学指導をする能力	知識	○	✕
進学先の学校のレベルを知っている	知識	○	✕
学生を出口へと確実に導く力	知・技・態	○	△
出口とやり取りをする力	技能・態度	○	△
<b>授業運営</b>			
授業の単位を取得させる	知識	○	✕
学生をドロップアウトさせない	知・技・態	○	✕
課外授業への取り組み	知・技・態	○	△
<b>教室運営</b>			
整理整頓の指導	技・態	○	✕
<b>生活について</b>			
アルバイトをする学生へのアドバイス	技・態	○	✕
遅刻や欠席のとき、学生を指導する	技・態	○	✕

イ) 時間数との関係

集合研修と eLearning を併用するとしても、アイスブレイキングのために集合研修が先行したほうがよく、研修のための交通費もバカにならないことから集合研修は2回が限界と見極めた。

すると、集合研修2回+その間のオンライン研修というのが取りうる形態ということになる。集合研修では、1日に最大で8時間、2日で16時間。この間に1時間のオンライン研修が4回あったとしたら、合計で20時間になる。この20時間が、研修にかけられる時間の最大である。

20時間の時間をどのように配分するか、どのように科目を分割するかを考えた。中堅の業務は概ね、教務が半分、学務が半分である。両方ができて初めて一人前ということで、研修の時間数は教務と学務が半々、それぞれ10時間とした。

ウ) 科目体系

これらから、次の科目体系を考案した。

- |                            |     |    |
|----------------------------|-----|----|
| 1. カリキュラムデザイン (初級・中級・上級)   | 3単位 | 教務 |
| 2. 初任等への授業の指導法 (初級・中級・上級)  | 3単位 | 教務 |
| 3. 特別な教授法                  | 3単位 | 教務 |
| 4. 進路指導 (学習者のキャリアデザイン)     | 1単位 | 学務 |
| 5. 試験法 (学内・クラステスト実施法、不正抑止) | 1単位 | 学務 |

6. 学習者のマネジメント（教室、出席、生活、行事）	4 単位	学務
7. マネジメント（専任の、非常勤の、外部との）	3 単位	学務
8. 外部研修への参加	2 単位	教務・学務
	計 20 単位	

エ) ターゲットの絞り込み

全日本学校法人日本語教育協議会から、ターゲットは専任にしぼりたいとの意向があり、それを前提にすることとした。

オ) 科目案とカリキュラム原案と文化庁の「教育内容」の照合

科目案とカリキュラム原案を脹らませたものと文化庁の「教育内容」を照合した。(次表)

番号	科目名	種別	内外	単位	文化庁の教育内容の項目との対応	内容					
1	カリキュラムデザイン	教務		3	⑦言語理解の過程	読む・聞く・話す・書くのバランス、順序、相互の関わりについて理解している					
					⑭日本語の構造	日本語の文法理論・教授理論・教科書について様々なものを知っている					
					⑧言語習得・発達	学習者の日本語能力・自己表現が、初級→上級へ進むにつれて進化できるよう指導できる					
					⑩言語教育法・実習	他の教師に指導できるよう自分の経験を客観視する					
					⑩-1日本語教育プログラム及び教育環境デザイン（事例研究）	入学から卒業まで通してのカリキュラムおよび授業外の活動について整理できる					
					⑩-3評価法（日本語能力評価）	テストのタイミングを判断し、カリキュラムと評価のバランスがとれる					
					⑬言語の構造一般	学習者の言語の特徴を踏まえて日本語指導ができる					
					・管理能力	勤務校の教育方針に基いて、カリキュラムを立案できる					
					⑩-3評価法（プログラム評価）	カリキュラムの良し悪しを判断し、よいカリキュラムが立案できる					
					⑩-3評価法（プログラム評価）	カリキュラムの点検・評価を行い、改善を図ることができる					
2	授業の指導法（初任等の指導・育成）	教務		3	⑧言語習得・発達	学習者の日本語能力・自己表現が、初級→上級へ進むにつれて進化できるよう指導できる					
					⑩言語教育法・実習	他の教師に指導できるよう自分の経験を客観視する					
					⑩-3評価法（授業評価）	授業の良し悪しを判断し、よい授業できるよう初任教員の指導できる					
					⑩-3評価法（指導力評価）	学習者への指導の良し悪しを判断し、よい指導ができるよう初任教員の指導できる					
					⑦言語理解の過程	学習者の学習上の弱点を把握し、その人に適した学習方法が助言できる					
					⑩-3評価法（日本語能力評価）	テストの良し悪しを判断し、よいテストが作れるよう初任教員の指導できる					
					・人材育成能力	コーチング能力があり、初任教員の教案、授業に対し、適切な指導ができる					
					・マネジメント能力（チームマネジメント）	他の専任や非常勤を動かして授業が推進できる					
					・マネジメント能力（ラーニングマネジメント）	学習者の自立学習を促し、進捗を確認、持続させることができる					
					3	特別な教授法	教務	内部・外部	3	⑩-2目的・目標別日本語教育法（ファシリテーション）	短期コース・特定の目的のコースについて、カリキュラムを立案し授業を実践できる
③-1日本語の試験	能力試験・留学試験・BJTについて情報収集し、対策授業が実践できる										
⑭日本語の構造	日本語の文法理論・教授理論・教科書について様々なものを知っている										
⑦言語理解の過程 他	学習者の日本語能力やニーズを適切に把握・分析し、効果的な学習方法や教材等について多様な選択肢を提示することができる										
⑩言語教育法・実習（教材分析・開発）	日本語教育プログラムの目標に応じた学習者の学習時間、到達目標に合致した教材を選択・作成できる。										
⑩言語教育法・実習（コースデザイン）	日本語教育プログラムの中長期的な指導計画を策定する能力を持っている。										
⑫言語教育と情報	日本語教育に関するICT教材の動向について知識をもっている										
⑩-1日本語教育プログラムにおけるICTの活用	授業および授業準備にICTを使える										
4	進路指導	学務		1						⑤-2 言語使用と社会	学習者が希望する進学・就職などの進路に合わせ、キャリア教育のタイミングや内容を考え、実践できる
										③-1日本語の試験	能力試験・留学試験・BJTの点数に基いて進路指導することができる
					④言語と社会の関係	学習者に進学先等の情報を収集させ、取捨選択させることができる					
					④言語と社会の関係	学習者が必要な進学での手続きについて知っている					
					⑤-1 言語使用と社会	役所や進学先等、社会生活において学習者が必要な会話を適当な時期に適切に教えられる					
					・事務能力	業務の優先順位を把握し、業務的なスケジュールを組み立て、遂行できる					
					・マネジメント能力（ラーニングマネジメント）	学習者の自立学習を促し、進捗を確認、持続させることができる					

5	試験法 - 学内・クラステスト実施法、不正抑止	学務	1	③-1日本語の試験	能力試験・留学試験・BJTについて情報収集し、模擬試験などの計画ができる
				⑪異文化間教育とコミュニケーション教育	学習者の出身国の文化および学習者の性格を踏まえ、日本社会、日本文化を理解し、異文化間摩擦を起こさないコミュニケーション教育ができる
				・事務能力	業務の優先順位を把握し、業務的なスケジュールを組み立て、遂行できる
				・マネジメント能力（チームマネジメント） ・マネジメント能力（ラーニングマネジメント）	他の教員や事務員と分担して業務を遂行できる テストの結果を踏まえ、学習者の自立学習を促し、進捗を確認、持続させることができる
6	学習者のマネジメント - 教室運営の指導法（整理整頓、担任業務） - 出席指導の指導法（遅刻欠席の管理、面談） - 生活指導（アルバイト管理、異文化管理） - 行事運営（遠足、式典）	学務	4	④世界と日本	学習者の出身国のニュースや災害情報を知る
				⑫異文化接触	学習者のふるまいから気づいた学習者の国の文化および日本の文化についてメモを取る
				⑥異文化コミュニケーションと社会	出身国の文化・習慣と日本での違いについて知っている
				⑨異文化理解と心理	学習者が直面する日本社会内での意識の葛藤を理解し、学習者への配慮ができる（学校、アルバイト、生活）
				⑪異文化間教育とコミュニケーション教育	学習者の出身国の文化および学習者の性格を踏まえ、日本社会、日本文化を理解し、異文化間摩擦を起こさないコミュニケーション教育ができる
				・管理能力	勤務校の教育方針に基づいて、学習者を指導できる
				・事務能力	業務の優先順位を把握し、業務的なスケジュールを組み立て、遂行できる
				・管理能力	勤務校の学習者数、国籍別人数をある程度把握している
				・管理能力	コース、クラス、学校運営に問題意識をもって日ごろから気を配ることができる
				・マネジメント能力（チームマネジメント）	他の教員や事務員と仲良くチーム作りができる
				・マネジメント能力（チームマネジメント） ・マネジメント能力（ラーニングマネジメント）	他の専任や非常勤を動かして指導や行事の推進できる 異文化を乗り越えて、学習者を動かし、学習者のこのころをつかむことができる
				7	マネジメント - 専任・事務との - 非常勤との - 外部との
⑯コミュニケーション能力	いろんな人に声がけし気配りができ、非常勤の悩みなどの相談にのれ主任の方針のもと助言できる				
・マネジメント能力（チームマネジメント）	考えの異なる教員や事務員と仲良くチーム作りができる				
・マネジメント能力（チームマネジメント）	クラスや教員間の問題について解決策を考え行動できる				
・管理能力	新しい課題について、業務フローと業務分担を考え、人を動かすことができる				
・マネジメント能力（ラーニングマネジメント）	教科書や教材、教授法、外部の研修会などの情報を収集・共有・提供できる				
・マネジメント能力（チームマネジメント）	休講で穴の空いた授業の手配や最小限の準備で穴埋めできる				
・事務能力	手続き・事務処理・経理処理・学習者の病気などにおいて事務方と連携がとれる				
・管理能力	進学先や業者などの担当者に気配りし情報提供などを通して信頼を得る				
・マネジメント能力（セルフマネジメント） ・マネジメント能力（セルフマネジメント）	仕事を抱え込みすぎない 絶えず授業能力を向上し、忙しくとも授業準備して授業に臨む				
8	外部研修への参加 - 研究大会、学会、交流基金、セミナー等 - 取次申請、著作権、多文化共生、介護研修等	教務・学務	2	②-1日本の在留外国人施策・制度	関係省庁による在留外国人施策を把握している
				②-2関係省庁による日本語教育施策	関係省庁による本語教育施策を把握している
				③日本語教育の歴史と現状	日本語教育学の現状と限界を知る
				③-2国内外の多様な日本語教育事情	国内の日本語教育について情報収集ができる
				⑭言語研究	学会や日振協研究大会に参加し発表を聞き質問してみる
				⑯言語教育と情報	日本語教育に関するICT教材の動向について知識をもっている
				⑯-2著作権	著作権についての知識をもっていて、違法行為をしない
				・ネットワークング力	外部の関係者と友好的な関係が築ける
小計	教務		9		
	学務		9		
	教務・学務		2		
合計			20		

## f. 最終的なカリキュラム

その後、中堅研修はeのカリキュラム案を元を実施された。10名の実施委員が軌道修正とすり合わせを経て各科目の細部を固め、19名の受講生を対象に実施した。運営委員、実施委員、受講生、受講生の上司からの評価を経て、次年度のカリキュラム案ができている。カリキュラムの骨格は本事業の委員がつくった案が生きている。

番号	科目名	種別	内外	単位	2018			2019				
					必修	事前研修	教材	2019	事前研修	教材	2019の方針	
0	オリエンテーション	学務		1	必修			世界情勢、政治・行政の情勢、日本語学校の情勢、研修の意義	必修			同様のものに加え、参加者同士のアイズプレイク
1	カリキュラムデザイン (初級・中級・上級)	教務		3	必修	1	カリキュラム理論のレジュメ、添削対象カリキュラム、ファシリテーションガイド	カリキュラム理論、自分のベストカリキュラムの交換、新人の作ったカリキュラムの改善	必修	1		新人の作ったカリキュラムの改善 (JLPT対策を追加)
2	授業の指導法(初級・中級・上級)	教務		3	必修		初中上級の授業評価シート	初級・中級の授業評価視点の整理	必修	1		授業評価シートを使い新人の授業を評価し上司に報告したり新人を指導したりする
3	特別な教授法	教務	一部外部	3	なし				必修	1		JLPT対策とICT活用をキーワードにした授業法
4	試験法 → 評価法	学務 → 教務		2	必修	1	事前学習ビデオ4本、試験結果データ、試験問題(既存)、講義パワーポイント	試験評価理論を学び、プレースメントテスト結果をPC上で分析、出題の改善方法を考える	必修	1		ほぼ同様。評価対象をアチーブメントテストに変更するかどうか検討。
5	進路指導	学務		2	必修	1	進路指導アンケート、進路指導項目シート	進路指導についてのベスト・プラクティスの交換、新人の指導計画をつくる、経験の浅い教員については進路指導のエッセンスをレクチャー	必修	1		進路指導の中でテーマを選び、知識インプット型の研修、それを踏まえて教育の改善方法を考える
6	学習者のマネジメント	学務		3	必修	1	講演ビデオ、講義パワーポイント	金沢工大のポートフォリオシステムについて学ぶ、日本語学校における情報を学習者指導に活かす方法を考える	必修	1		学習者のこころを動かすというテーマと学習(記憶など)についての理論について、いずれかに焦点をあてて知識を学んだ上でワークショップで実践する
7	マネジメント	学務		3	必修		マネジメントのCAN-DOシート	マネジメントのCAN-DOシートで自己評価する、期待される中堅像を示す、自分の強みを考える、自己改善の方法を考える	必修	1		マネジメントのCAN-DOシートで自己評価する、期待される中堅像を示す、自分の強みを考える、改善の方法を上司と話し合う
8	外部研修	教務・学務	外部	2	選択		外部研修リスト	様々な外部研修をリストアップ、受講した研修についてレポート作成	選択			様々な外部研修をリストアップ、受講した研修についてレポート作成
9	生活者の日本語	教務・学務		2	なし				選択	2		生活者に関する在留制度、生活者のニーズ、生活者に向けた日本語教育プログラム
	ビデオ編集							ビデオ収録・チェック・編集・公開・ルール作り				ビデオ収録・チェック・編集・公開・ルール作り

## (2) 企画から実施、評価の流れ

中堅研修において、企画の提案から実施の意思決定、受講生募集、受講生管理、講座の開発から講座の内容決定、講座の実施、LMS との連動、講座の評価、講座の継続などに関し、様々な体験をさせていただいた。

<b>コ ー ス</b>	「中堅研修」(「授業力アップコース」(教師向け)、事業外)
<b>実証講座の対象者</b>	日本語学校の中堅教師(2700時間以上の日本語教育経験、初級から上級までの授業経験、専任教師)
<b>期 間 (日数・コマ数)</b>	分量:16コマ 期間:4ヶ月
<b>実施手法</b>	集合研修(2日間)と eLearning を併用して実施した。実施委員10名によりカリキュラムの調整と教材開発を行い、研修時は実施委員が講師またはファシリテーターとなって実施した。GoogleClassroom 上に LMS を構築して受講を支援した。
<b>受講者数</b>	19名
<b>実施校数</b>	全学日協(参加校7校)

## (3) 反転ビデオの作成について

中堅研修において、本事業で昨年見出した研修ビデオの作成法に基づいたコンテンツが作成された。一方で、より簡単な方法として、集合研修をビデオ収録しておきそれを元に研修コンテンツを蓄積するという方法を実践した。

### 3. 3 日本語教育振興協会での公開

日本語教育振興協会においては

- ・評議委員会における報告
- ・研修委員への報告
- ・主任研修における発表
- ・研究大会におけるポスター発表
- ・研究大会のポストセッション「日本語教育 e-learning 展示会」におけるブース展示

を行った。

特に、主任研修における発表、研究大会におけるポスター発表、研究大会のポストセッションにおけるブース展示では、本事業への参加を呼びかけた。本事業は注目を集めたが、多くの反応は「完成したら使ってみたい」というもので、一緒につくりたいという反応はそれほど多いものではなかった。それでなくとも多忙であるので、作っている隙がない、というのが実情だったのではないか。つくりたいということでは、5校から参加の申し出があった。

本事業の発表を聞いて、ヒューマンアカデミー日本語学校や別府大学日本語教育別科などでは、研修ビデオの作成が始まった。本事業が意図する公開された研修の場ではないが、一定の波及効果があった。

次ページに、研究大会におけるポスター発表の発表原稿を示す。



## 5分間で研修！——教師研修 eLearning 教材の作成・公開

平岡憲人（清風情報工科学院）\*・影嶋知香子（横浜デザイン学院）\*\*・  
 大山シアノ（カイ日本語スクール）・肥田野美和（東京国際大学付属）・  
 大和佐智子（久留米ゼミナール）・平岡佳梨加（ATOWA）

### 発表の趣旨

学生数の急増で研修に十分な時間を確保できないまま、教壇に立つ教師が増えている。日本語学校の業務状況や勤務形態などを考えると、場所と時間を選ばない eLearning が教員研修に活用できるのではないかと。筆者らのグループは、日本語教師が研修できるオープンな eLearning 講座を構築し、普及したいと考えている。そこで、本発表では、eLearning の1手段として動画に注目し、eLearning 教材（研修ビデオ）の作り方を公開する。受講生の集中力や持続性を考えると、教え方の要点が5分間の動画にまとまっている必要がある。

研修ビデオの作成・公開は次の5ステップからなる。詳しくは図1・図2を参照のこと。

STEP 1 研修企画 → STEP 2 研修ビデオの企画 → STEP 3 撮影と仮編集  
 → STEP 4 本編集 → STEP 5 eLearning 教材として LMS 上で利用開始

研修ビデオのプロトタイプとして、5校のベテラン教師により研修ビデオを15本作成し、教員研修に利用しはじめた (<http://i-seifu.jp/seifu/>)。この研修ビデオを共有したい。また作成したい学校・教師をつのりたい。みんなでオープンな教師研修の場をつくらう！

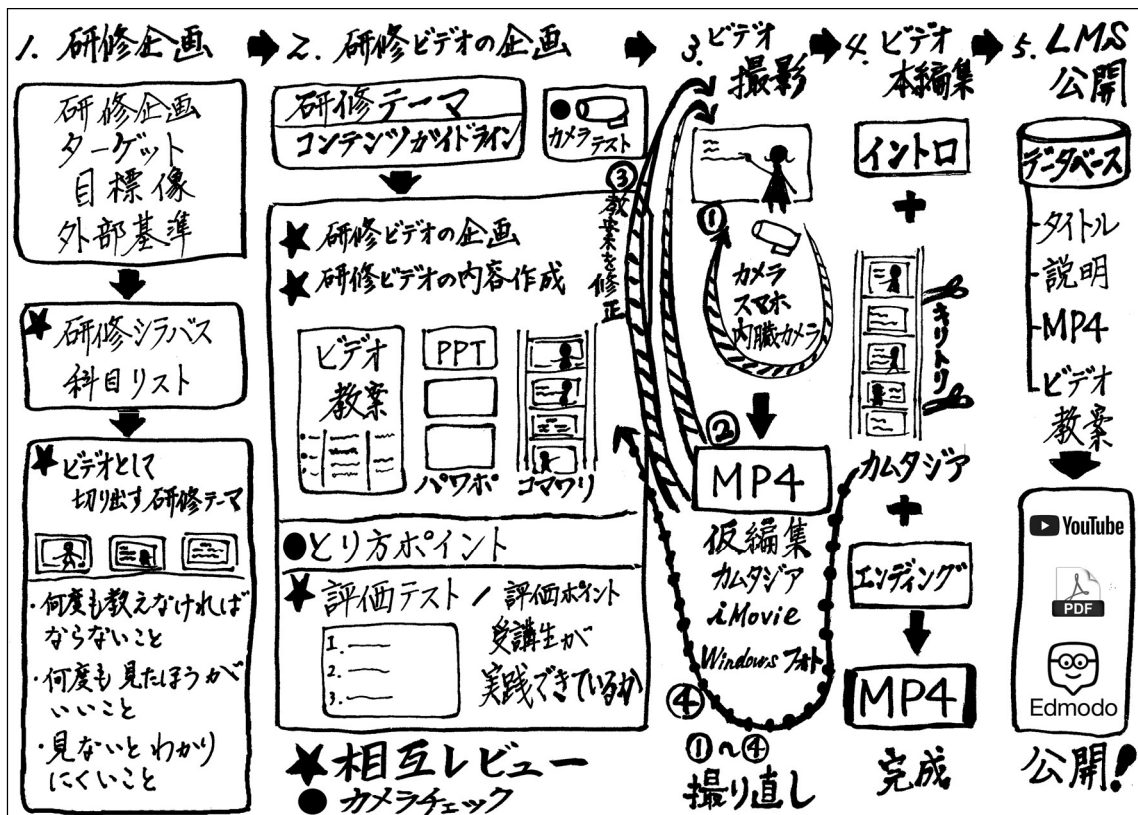


図1 研修ビデオづくりの流れ



図2 研修ビデオづくりの詳細

連絡先: \* n.hiraoka@i-seifu.jp, \*\* kageshima@ydc.ac.jp

### 3. 4 AMA 日本カレッジにおける実証授業

昨年度制作した研修ビデオを各校で利用することを試みた。しかし、他校が作った研修ビデオは作った意図・使う意図が、利用する学校にとって必ずしも明確でなく、利用が進まないということに直面した。多数の研修ビデオがあれば、その中から自校の目的に適したものを見つけて使うということが可能である。しかし、限られた研修ビデオを活かして研修するという観点にたつと、その観点からの研修カリキュラムが必要であることに気づいた。

そこで、カイ日本語スクールにおける研修ビデオ活用の方法をヒントとして、平岡佳梨加委員がAMA日本語学校の教員研修において、昨年度制作した研修ビデオを利用して教員研修を行い、そこから研修カリキュラムを見出すこととした。

#### (1) 実証授業の概略

##### a. 概要

<b>コ ー ス</b>	「授業力アップコース」(教師向け)
<b>実証講座の対象者</b>	新人教師、担当の級(レベル)が変わる教師、特定技能に自信のない教師
<b>期 間 (日数・コマ数)</b>	4日間 (8月17日、11月10日、12月26日、2月15日)
<b>実施手法</b>	日本語学校等の内部の教師研修活動で実施した。反転ビデオ等を活用して基礎的な知識やスキルを各自が獲得した上で、教務主任により集合研修・個別指導を行った。
<b>受講者数</b>	7名
<b>実施校数</b>	1校

##### b. 目的

- ・新人日本語教師の授業力をアップする。
- ・単に知識を得るだけでなく、人の授業から気づき自分の授業にフィードバックできるようにする。
- ・昨年度作成した研修ビデオを授業力アップに役立てる
- ・昨年度作成した研修ビデオを活用する研修カリキュラムを見出す

##### c. 対象

- ・すでに教壇にたった経験のある日本語教師 (420時間養成講座受講済み)
- ・経験時間数はまちまち。百時間程度から数千時間。文化庁基準の初任・中堅

(2) 実施結果



a. 授業の学び直し研修:レポート1 専任講師のレポートより

目的:教師養成以降の授業を学び直す

目標:

- ①先輩の授業を真剣にみて気づきを得る
- ②ここは、どうかなー？というところに気づく

「ドリルの仕方のポイント」 肥田野先生

①

②

- ・声が大き
  - ・左利きなので板書の際、体が学生に向いている
  - ・服装がきちんとしている
  - ・発音がききとりやすい
  - ・話のスピードが初級者にちょうどいい
  - ・板書が最低限でいい
  - ・字の大きさも適切
  - ・説明が簡潔
  - ・部屋の写真がわかりやすい
  - ・学生の方を向いている
- <感想>淡々としているが丁寧な授業

「授業前の準備」 肥田野先生

①

- ・バワボがわかりやすかった
  - ・声が聞き取りやすかった
  - ・字が読みやすかった
  - ・箇条書きでわかりやすかった
  - ・ポイント別にまとめてあってよかった
  - ・具体的なアドバイスでよかった
  - ・「自由に文を作らせるのはNG」というアドバイスが心に残った
  - ・「メリハリが大切」というアドバイスも参考になった
  - ・何度でも見たくなる内容だった
  - ・どのレベルにも参考になる内容だった
- <感想>折にふれ見返したくなる内容でした

「中級文型の導入」 肥田野先生

①

②

- ・実際の授業の映像があるとよかった
- ・具体的な文型について述べてもよかった
- ・実際の教案例を見せてもらえればうれしかった
- ・失敗例を示してもらえると、より参考になったかも

・笑顔がよかった

・説明がわかりやすかった

・頻回にリピートさせていた

・まず「初級文型を提示」というアドバイス

・よく共に使われる動詞も提示していた

・声が大きかった

・発音がわかりやすかった

・服装がきちんとしていた

・「気をつけること」が箇条書きでわかりやすかった

・「テキストの例文にも触れる際の注意点」が参考になった

<感想>とても丁寧な授業

・「名詞に接続」という説明のあと、すぐ「おもしろかったこと」と名詞句に接続する例文は不適切かと思った

・「インターネットで調べた」「レポートを書いた」の文も板書してもいいと思った

・「名詞の前だから『の』」という説明では不十分だと思った。

その前の「～についてインターネットで調べた」の例にも当てはまってしまうので。

「て形定着のための口頭練習」 影嶋先生

①

・「学生の負担を減らす」というアドバイス

・Ⅲ→Ⅱ→Ⅰグループ順に練習

・テンポが良かった

・声の大きさも良かった

・話すスピードも適切だった

・服装が良かった

・強制的に言わせる雰囲気なかった

・て形からます形を作らせていた

・最低限しか板書していなかった

・教案例も見られた

<感想>はつらつとしたテンポのいい授業

②

・若干、字が小さい印象

・授業前半はいいが、後半は学生の答えを教師がリピートしなくてもいいと思った

・て形→ます形の練習のとき、答えがホワイトボードにすでに書いてある動詞を取り上げていた(?)のような気がした

・(板書の仕方を確認したい)

「語彙を覚えるのはゲーム感覚で」 影嶋先生

①

②

- ・教師役を代わるのは良いアイデア
- ・おもしろいが、クラスによっては5分ぐらいで飽きてしまう
- ・立たせるのもいつもと違う感じでいい
- ・人数が多いクラスでは、たった2人だけの活動なので集中してくれない可能性がある
- ・5枚一度にクイズにしていた
- ・「自動詞・他動詞にも応用できる」
- ・説明がわかりやすい
- ・絵カードも見せてもらえた
- ・具体的な例を見せてもらえた
- ・準備が要らない
- ・気分転換になる
- ・楽しい雰囲気が作り出せる

<感想>おそらくどの先生も同じような活動のアイデアを持っている

#### 「漢字の書き方」 影嶋先生

①

- ・データがおもしろかった
  - ・データの分析もおもしろかった
  - ・「繰り返しが重要」とわかった
  - ・最初から今日習う漢字全てが板書してあった
  - ・「タ」「ト」と教えていた
  - ・最後に「そと」と読み方を確認していた
  - ・板書がきれい
  - ・読み方もハキハキしていた
  - ・6つくらいの漢字の量がちょうどいいと思った
  - ・一つの漢字が終わるたびに学生の方を向いていた
- <感想>おそらくどの先生も実践されていると思った

②

- ・「タ」「ト」「そと」と教師が言ったあと、リピートさせてもかった
- ・「花」という漢字のとき、「はねる」部分についての指摘がなかった
- ・「総」という漢字のとき、またまた「く」「ム」と説明していたが、この漢字を習うころには部首が理解できていると思われるので、「糸(いと)」と簡略化してもよかった

#### 「ウタカラ ーます形・て形ー」 平岡先生

①

②

・メロディーが外国人でも馴染みのあるものだった ・「び」「み」「に」、「ぶ」「む」「ぬ」の音が、ハキハキと歌っていても、やはりまだ聞き取りにくい

- ・笑顔だった
- ・かわいい声だった
- ・はっきり発音していた
- ・元気よかった
- ・歌詞も同時に見せていた
- ・「て形導入前から歌う」のもいい
- ・歌っている人の口の動きも見える
- ・歌うスピードも適度だった
- ・顔が学生の方を向いていた

<感想>「て形導入以前から歌う」というのは、おもしろい

「ウタカラー チェッチェコリー」 平岡先生

①

- ・学生によっては楽しい
- ・気分転換になる
- ・うまくいけば、クラスに一体感が生まれる
- ・楽しそうだった
- ・まったく恥ずかしくなさそうだった
- ・声が大きかった
- ・明るい雰囲気だった
- ・体の動きもついていた
- ・脳が活性化する可能性
- ・歌っている人に愛嬌がある

<感想>学校で取り入れるなら、この活動の目的をしっかりと共有する必要がある

②

- ・教師によっては恥ずかしがる人もいる可能性
- ・したがって、歌う前にこの活動の目的等を説明した方がいい（一度では歌詞が覚えられない）

「導入パターン① -場面→意味→形-」 大山先生

①

- ・教師の雰囲気が柔らかくて素敵
- ・イラストがかわいい
- ・ローマ字を併記
- ・動詞の変換部分は赤字

②

- ・「スーパーマン」や「ペンギン」が「飛ぶ」という状況は、学生にとって身近なものではなかった
- ・「change します」や「example」という教師の説明は学習者の国籍によっては通じない



- ・同じ質問を他の学生にもしている
- ・必ずリピートさせている
- ・自動詞→他動詞の順で提示
- ・テンポがいい
- ・声を張るのではなく語りかけるような口調がいい
- ・失敗してもいいという雰囲気があって良かった

<感想>雰囲気が好きな先生だったが、多人数の私語が多いクラスでは大丈夫かなと思った

「導入パターン② 一意味→形→場面」 大山先生

①

- ・手の中にコインで「あります」の導入がわかりやすい
- ・教師自身も楽しんでいる雰囲気
- ・導入のあと、使用場面へと自然にうつった
- ・リピートもきちんとさせている
- ・いつも笑顔
- ・話すスピードがやや遅くて良かった
- ・声も大きすぎず、いい
- ・身なりがきれい
- ・部屋のイラストがわかりやすい
- ・使用場面がレストランなのは学生に身近でいい

<感想>導入を「意味から」「形から」「場面から」と考えたことがなかったので、いい気づきになった

②

- ・最初から「～はありますか」と導入していたが、基本の形は「～があります」だと思うので、少し違和感があった
- ・「～」のことを「ブラブラブラ…」という説明は、学生の国籍によっては通じない

「導入パターン③ 一形→意味→場面」 大山先生

①

- ・常に笑顔
- ・「私は」を省略していた
- ・「こどものとき…」と身近なテーマ
- ・い形→な形→動詞と提出
- ・そのあと、ランダムに提示
- ・学生の発言にリアクションしていた
- ・リピートをさせていた
- ・授業のテンポがよかった

②

- ・「Verbをつなげるやり方ですね」という説明は、このレベルの学生には丁寧さを欠く
- ・「まとめます」という説明も不必要と思った

- ・声も適度な大きさだった
- ・話すスピードもよかった

<感想>楽しそうに授業していらした。実際の授業も楽しい雰囲気なのだろうと推察された

「みんなの日本語の会話のすすめ方」 大和先生

①

- ・ビデオを見る前にテーマについて話す
- ・ビデオを見る前に聞くポイントについて確認
- ・ビデオを全て見せていない

- ・見たあとは、絵でレポート
- ・教師のあとにも続いてレポート
- ・いつの間にか学生も会話を覚えている
- ・役割を交替させていた
- ・最後までビデオを見ることはなかった
- ・教師の話し方が自然だった
- ・最後に学生のダイエット方法を聞いていた

<感想>やや高圧的な感じがする先生で、自分が学生なら「少し怖いな」という印象

②

- ・笑顔がなかった
- ・声を張りすぎている印象
- ・学生からの発言に、もっとオーバーリアクションしてもよかった

「ウォーミングアップ」 大和先生

①

- ・まず「おはようございます」の挨拶
- ・実際の教師の実家の写真
- ・声が大きかった
- ・テンポがよかった
- ・時間が7分ぐらいだった
- ・左右、両サイドの学生を見ていた
- ・写真のサイズはB4ぐらいでカラー
- ・教室の前の真ん中に立っていた
- ・話を無理に広げていなかった
- ・学生から無理に発言を引き出すこともなかった

<感想>自分なら、無理に笑いをとったり、無理に学生に発言を促したりするだろうと反省

②

とくになし

「教材研究の重要性」 大和先生

①

②

- ・箇条書きにまとめられていた
  - ・「軸がずれている場合が多い」という指摘だが、そもそも軸がどこにあるかわからない教師も多いのでは？
  - ・「担当する箇所だけではダメ」と指摘
  - ・「軸を大切に」という指摘
  - ・項目が5～6つぐらいにまとめられていた
  - ・その「軸」がわからない場合の解決法など、具体的な対処法の紹介があってもよかった
  - ・声が聞き取りやすかった
  - ・教師の姿がない分、パワポに集中しやすかった
  - ・授業外の仕事になるので、手際よくするためのコツといったアドバイスがあってもよかった
  - ・話すスピードがちょうどよかった
  - ・字の大きさもよかった
  - ・簡潔にまとめられていた
  - ・話の展開のスピードもよかった
  - ・きびきび動いている
  - ・スカートじゃない
  - ・漢字も見せている
- <感想>ここが授業を成功させるためのポイントになるので重要なことだとは思った

## b. 授業の学び直し研修:レポート2 非常勤講師のレポートから

目的:教師養成以降の授業を学び直す

目標:①先輩の授業を真剣にみて気づきを得る

②ここは、どうかなー?というところに気づく

「ドリ」・「授業」・「中級」 肥田野

1. -話すテンポがよい
  - 大事なことを繰り返す
  - 指示が明確でわかりやすい
  - 学生の発話が多い
  - 無言の時間が少ない
  - 板書の際も話しながら書いている
  - 学生に考えさせて発話させている
  - 教師の目線が常に学生にある

- わかりやすい導入の後に学生に発話させ、のち学生自身に考えさせるという流れが  
できている
- 板書が見やすい
- レベルに合わせた話し方、語彙コントロール
- 常に落ち着いている

2. 板書に色が無い(ように見えたが、写り方のせいかもしれない)

「て形」「語彙」「漢字」 影嶋

1. -学習者の答えをきちんと復唱している。
  - て形に直すだけでなく、て形→ます形も練習することでさらに定着をはかっている
  - 板書見やすい
  - 字が見やすい
  - カタカナを使った漢字の教え方おもしろい
  - 語彙にしても漢字にしてもユニークな発想をたくさん使っている
2. -自分のことを「あたし」と言っているように聞こえた
  - 「ます」を「まーす」と全部言っていて、学習者も「まーす」と発音しているのが少し気になった
  - カタカナを使った漢字の教え方はおもしろいが、テンポも速く、急に漢字(巾など)が出たりもするので、学習者には少しわかりづらいのではと感じた。

「ウタ」 平岡

1. -歌で教えると覚えやすいと思う。
  - て形導入の1ヶ月前からあえてて形と教えずに歌から入るといい
  - ただ歌っているだけのようで、自然に身に付いているので1ヶ月後て形を導入するのがスムーズなのが想像できる

「導入」「導入」「導入」 大山

1. -指示が明確
  - 導入→説明→学生から発話を引き出す
  - イラストがあることでやはりとてもわかりやすい
  - パワーポイントの配置がとても見やすい
  - 語彙を可能動詞にチェンジする練習は、機械練習をしっかりとしてから発展練習に入っているのも間違いが少ないと思われる

- 実際に手にもものを入れて、「あります／ありません」の練習をしていて、実際のものを使って導入しているので、とてもわかりやすかった
- 「名詞→い形→な形→動詞＋とき」の練習を順にしていき、理解できたかどうかをキューを出してつなげさせる方法でやっていたのがとても勉強になった

「みんな」「ウォ」「教材」 大和

1.
  - 絵カードを使って前を向きながら発話をさせる工夫があった
  - 会話の内容を自分のことに置き換えて発展練習させるときの指示だしが明確
  - やらなければいけないことが多い日など、ウォーミングアップをないがしろにしがちだったが、改めて大切さに気づけた

c. 授業の学び直し研修:レポート3 非常勤講師のレポートから

目的:教師養成以降の授業を学び直す

目標:①先輩の授業を真剣にみて気づきを得る

②ここは、どうかなー?というところに気づく

- ・ドリルの仕方ポイント (肥田野)
- ・授業前の準備
- ・中級文型の導入

①

- ・ジェスチャーを多用している。
- ・カバン等のレアリアを使用している。
- ・白板だけを見ず学生の方にも注意を傾けている。
- ・集中しない学生を指名すること
- ・学生に考えさせる質問を投げかけること
- ・授業のポイントを把握しておくこと

②

- ・導入部分の板書の色を変えるとよい。
- ・導入の例文を学生が身近に感じるものがよい。
- ・文末制限の説明を授業の前半にした方がよい。
- ・授業全体の声のトーンや速さが同じなのでもう少し変化をつけた方がよい。

初級の導入パターン① (大山)

初級の導入パターン②

初級の導入パターン③

①

- ・ペアで練習し合うのがよい
- ・話し方がゆっくりで聞き取りやすい。

②

- ・いきなり例文を提示しているなのでその前にワンクッションおくとよい。
- ・教師の発言が多すぎる。

て形定着のための口頭練習（影嶋）

語彙を覚えるのはゲーム感覚で

漢字の書き方

①

- ・板書計画を準備していること。
- ・学生の発音のあとに再び発音しているのがよい。
- ・繰り返しの動機付けを考えることが大切
- ・楽しそうに歌うことで授業が盛り上がる

②

- ・学生が間違いや、答えられなかったときの対応が考えられているとよい
- ・画数が多いと逆に難しく感じる
- ・この方法が使える漢字に限りがある
- ・覚えやすいが実際に書くときに正確な漢字の形と異なるかもしれない（例えの表現と実際の漢字は異なるため）

漢字の書き方（平岡）

て形、ます形、辞書形 ver

チェツチェツコリ

①

- ・て形の練習とは事前に伝えないこと

②

- ・歌うのが苦手な学生は動機づけが難しいかもしれない
- ・みんなの日本語の会話の進め方（大和）
- ・ウォーミングアップ
- ・教材研究の重要性

①

- ・最初に絵をみせずにリスニングに集中させているのがよい
- ・ワークシートを使っているのか
- ・社会問題をどこまで取り扱うかがポイント

- ・教える軸を決めること

②

- ・ダイエットが学生にとったら嫌なトピックの場合がある。

初級漢字法ストラテジー（平岡）

マイ漢字

脳内漢字かな変換

①

- ・身体を使うことで覚えやすくなる
- ・明るく大きな声で

②

- ・おとなしい学生に対してどう指導するか

### 3. 5 ベルリンにおける実証授業

昨年度制作した漢字学習アプリを利用して実証授業を行った。

#### a. 概要

<b>コース</b>	「授業力アップコース」(学習者向け)
<b>実証講座の対象者</b>	日本語に興味をもった非漢字圏学習者(ドイツ人)
<b>期間 (日数・コマ数)</b>	10日間(9月18日、27日、10月4日、11日、18日、11月8日、15日、22日、29日、12月6日) 5日間(1月24日、31日、2月7日、14日、21日)
<b>実施手法</b>	昨年度開発した漢字アプリを活用して授業を実施する。
<b>受講者数</b>	6名、12名
<b>実施校数</b>	1校

#### b. 目的

- ・昨年度開発した漢字アプリを活用して漢字習得の授業を実施する。
- ・この授業を通じて、ハイブリッドラーニングの手法を確認する。
- ・このアプリを活用した教師研修講座のカリキュラムの要件を整理する
- ・開講手続きについて確認する。

#### c. 対象

- ・日本語に興味を持った非漢字圏学習者(ドイツ人)



## 1. 当該実証講座開設機関：ベルリン市民大学 Volkshochschule

Volkshochschule (=VHS ; Volk=市民+Hochschule=大学) は、日本語には「成人講座、社会学級、成人教育センター、市民講座、市民大学」などと訳される。市町村などの地域社会が成人のための継続教育・生涯教育の一端を担う公立教育機関で100年以上の歴史を持つ。ドイツ全国に存在し、どんな片田舎でも見つけることができる。15歳以上の市民であれば誰でも受講可能で、平日の午前中、午後、夕刻から夜にかけての時間帯に開講されるが、週末コースの場合もある。各講座は、通常1～15週間ほどの期間で、テーマ領域は、多岐に

The screenshot shows the website for 'die Berliner Volkshochschulen'. It features a navigation menu with 'Kurse' (Courses) highlighted. Below the menu, there are several categories of courses listed in a sidebar, including 'Sprachen' (Languages), 'Deutsch, Integration', 'Gesundheit, Ernährung' (Health, Nutrition), 'Kunst, Kultur, Kreativität' (Art, Culture, Creativity), 'Computer, Internet', 'Beruf, Karriere' (Career), 'Politik, Gesellschaft, Natur, Umwelt' (Politics, Society, Nature, Environment), and 'Grundbildung, Schulabschlüsse' (Basic Education, School Leavers). The main content area is titled 'Kurse an den Berliner Volkshochschulen' and includes a photograph of three people smiling in a classroom setting. To the right of the photo is a box titled 'Weitere Informationen' (Further Information) with a list of links such as 'A-Z - Stichwortsuche', 'Häufig gestellte Fragen', 'Was möchten Sie tun?', 'Buchen und Bezahlen', 'Geschäftsbedingungen', 'Beratung', 'Prüfungen und Zertifikate', 'eLearning', and 'Ansprechpartner'. Below the photo, there is a caption: 'Bild: © Gudrun Amdt' and a paragraph describing the course structure: 'Unsere Kurse sind nach Programmbereichen geordnet: Sprachen, Deutsch und Integration, Gesundheit und Ernährung, Kunst, Kultur und Kreativität, Computer und Internet, Beruf und Karriere, Politik, Gesellschaft, Natur und Umwelt sowie Grundbildung und Schulabschlüsse.'

亘る。ベルリン市12区提供分を例に取れば

(図1)、生活、政治、社会、史学、ベルリン市・近隣区域、哲学、宗教、教育、文化活動、スポーツクラス、健康管理、コンピュータ・情報学、心理学・コミュニケーション学、法学、消費者権利、自然環境、言語・語学など。「外国語としてのドイツ語」講座も多くあり、移民・難民のドイツ語・言語文化政策の重要な施策の一環を担う。「外国語」

図1：ベルリン市民講座

の中では、言うまでもなく「英語、フランス語、スペイン語、イタリア語などの欧州諸言語」の領域が最大であり、講座数、教師数も多いが、「日本語」も(特に初級レベル)4番目位に大きい領域である。当該実証講座

Kurssuche ändern    Trefferliste als PDF    Überblick

Seite 1 von 1

	Bezirk	Kursnummer	Kurstitel	Beginn	freie Plätze	Hinweis	Entgelt
	Charlottenburg-Wilmersdorf	CW410-103	Japanisch - Kanji Schrifttraining light	24.01.2019 19:15 Uhr	1	nur mit Beratung buchbar	€ 73,00 (erm. € 40,00)

Seite 1 von 1

Kurssuche ändern    Trefferliste als PDF

Hinweise:

1. Wenn Sie auf einen Kurstitel klicken, erhalten Sie weitere Details zum jeweiligen Kurs angezeigt.
2. Durch Klicken auf eine Spaltenüberschrift können Sie die Sortierung der Liste ändern.
3. Um sich bei einem belegten Kurs in die Warteliste aufnehmen zu lassen, legen Sie ihn bitte in den Warenkorb und folgen den üblichen Buchungsschritten.

図2：実施講座「Japanisch Schrifttraining Light (日本語漢文字トレーニング Light)」告示-I 2019-01-24~04-04 2019-02-18閲覧

「Japanisch Schrifttraining Light (日本語漢文字トレーニング Light)」も、下記(図2)

に見るように、「外国語としての日本語」の領域の一環として提供されている。

## 2. 実施講座「Japanisch Schrifttraining Light（日本語漢文字トレーニング Light）」

### 2.1 告示・年度・開設期間・受講料

**Japanisch - Kanji Schrifttraining light**  
Keine Vorkenntnisse erforderlich

**Kursnummer:** CW410-103  
**Volkshochschule:** Charlottenburg-Wilmersdorf  
**Auskünfte zur Anmeldung:** Tel.: 9029 28873, Fax.: 902928831, E-Mail: vhs@charlottenburg-wilmersdorf.de, http://www.vhs-city-west.de  
**Fachliche Beratung:** Herr Martin Behringer, E-Mail: Martin.Behringer@charlottenburg-wilmersdorf.de  
**Beschreibung:** Japanische Kanji Schriftzeichen leichter Lernen. In diesem Kurs lernen Sie mit einer gekürzten Version eines effektiven e-Learning Trainings allgemein gebräuchliche Kanji Schriftzeichen. http://www.fu-berlin.de/sites/digitale-lehre/ressourcen/geschkult/Japanologie/janpanol-kanji/index.html  
**Zusatzinformation:** Optionale Sprachberatung am 10.01.2019, 17-19 Uhr, Pestalozzistr. 40/41 Raum 213.  
**Bitte beachten Sie:** Raum 406 Unterricht auch am 07.02.2019  
**Kursleiter/-in:** Dr. Yamada-Bochynek, Yoriko  
**Unterrichtseinheiten (45 Min.):** 20 UE  
**Entgelt:** 73.00 EUR  
**Ermäßigt:** 40.00 EUR  
**Veranstaltungsort/Termin(e):** VHS Prinzregentenstraße, 10715 Berlin, Prinzregentenstr. 33-34, R. 406  
Do, 24.01.2019, 19:15 - 20:45  
Do, 31.01.2019, 19:15 - 20:45  
Do, 07.02.2019, 19:15 - 20:45  
Do, 14.02.2019, 19:15 - 20:45  
Do, 21.02.2019, 19:15 - 20:45  
Do, 07.03.2019, 19:15 - 20:45  
Do, 14.03.2019, 19:15 - 20:45  
Do, 21.03.2019, 19:15 - 20:45  
Do, 28.03.2019, 19:15 - 20:45  
Do, 04.04.2019, 19:15 - 20:45

図2は、現行実施講座「Japanisch Schrifttraining Light（日本語漢文字トレーニング Light）」のネット2018年度冬学期及び2019年度春学期の告示であり、図3は同講座の仕様である。

- 開設時間：全10週間/各90分授業（19:15～20:45）
- 受講料：73€ユーロ（割引43€）

図3：実施講座「Japanisch Schrifttraining Light（日本語漢文字トレーニング Light）」仕様 告示-2 2019-02-18閲覧

### 2.2 授業者・名称・シラバス・eLearning教材 KanjiKreativLight (=KKL), 副教材

- (1) 授業者：本稿筆者 KanjiKreativ(2003)開発者 元ベルリン自由大学日本文学准教授 Dr. 山田ボヒネック頼子（博士：英語学・文化記号学・日本学）
- (2) 名称：「Japanisch Schrifttraining（日本語漢文字トレーニング）Light）」

ベルリン City West VHS 外国語部門 Martin Behringer 部門長の命名。筆者は、「Kanji」という語彙を使って欲しいと願い出たが、当該語彙は、「通常のドイツ人にとっては、『未知』のものであるため、それを使うのは広報を目指す『講座告知』には不適當。『Light』は原版 KanjiKreativ（有償・現行 25€）の簡易版であることを示すため」と B.部門長の弁\*。

\*参照（図3中「講座内容記述」：この講座では、eLearning 漢字学習プログラムの簡易版を使ってより楽に常用漢字が勉強できます。

(3) 10 週間シラバス (下図 4 参照)

実施日	本講座の目標
20.09.2018 ~ 06.12.2018 (金) 19:15 - 20:45 (90分授業)	<p>漢文字構成法を理解し、記号解読力の基礎「識字力」を確立する: ①文字体系の俯瞰図的把握: 小単位&gt;組合せ&gt;中・大構造体 ②KanjiKreativE-学習プログラム構成法</p> <p><b>I. 理解事項</b> 1)日本語表記法「漢字仮名交じり文」 2)漢文字体系の俯瞰図的把握 マクロ⇒ミクロ(常用漢字&gt;原子) 3)常用漢字表(2136字/4388音訓[2352音・2036訓]) ⇒ヒトの視覚・認知力をフル活用して先ずは「識字力」養成から⇒「音訓読み」とは日本語の語彙を覚えること(∴このクラスでは漢文字を覚える。漢語彙は通常の日本語クラスで。アルファベットを覚えて、後は英・仏・トルコ語修得、と同様) 4)「総原子」を覚えれば全常用漢字の書字能力獲得</p> <p><b>II. 修得事項</b> 4)2136字より抽出された「281原子=最小構成要素」&gt;「173」の脳内刻印&gt;&gt;&gt; 利用原子数 173&lt;対象漢字数 233 (漢字たまご 初級、概ね旧4級の範囲(1471漢字収録しており、重要漢字として呈示するのは233漢字) 5)漢字造字法・解読法の基礎「識字力」を確立</p>

Berlin VHS CW410-102 10週間 漢字KKL教育 時間軸展開図

学習領域	学習事項 To be acquired	日程	第1日目 金, 20.09.18	2日目 27.09.18	3日目 04.10.18	4日目 11.10.18	5日目 18.10.18	6日目 08.11.18	7日目 15.11.18	8日目 22.11.18	9日目 29.11.18	10日目 最終日 06.12.19	到達目標達成? Final Goals!		
日本語 表記法	漢文字学習 Kanji-Learning	173原子版 内刷印	①オリエンテーション ②173漢字習得(象形・会 意文字、日本の書字・ア クセント/クワン3型)	Engramming of 173-Genshi 1 7 3 原子 脳内 刻印											
	KKL 原子学習 KKL	造字力 原則 会得	③KKL-Downloadリンク	Mastering the principle of Kanji-Creation										造字力 原則 会得	
	漢字文法 (原子分析> 意味解読)			Acquisition of the Kanji-Grammatik (Genshi-Analysis > Decoding)										漢字文法力獲得(原子分析>意味解読)	
	漢文字 ネットワーク Kanji-Network			Kanji-Links 漢字リンク記号拡張										Creation -Kanji- Mind- Mapping 漢字Mind- Mapping創作	
	全常用漢字体 系性の俯瞰的 把握Systematic Understanding of Kanji-Signs			Systematicity Significa & Phonetica										形声文字原則:意符+音符 俯瞰図的把握	
教育論・ 学習理論	個人版 学習	私の「変容録」 My Changes	My Kanji Competence? Self-Reflection VAK-Learning-Modality?												
	個人主義的 協働学習	各グループ内省録 (記録) Group's Trajectory	1) Group-Competence? 2) Synergetic Works?												

参照 : 図 4 : 実施講座「*Japanisch Schrifttraining Light* (日本語漢文字トレーニング Light) シラバス 2018 年冬学期。2019 年春学期もこれに準じる\*, \*\*。

\*



KKL 講座第 1 時限 : 9 月 20 日「15 漢字導入」中の筆者




KKL 講座第 1 時限に授業参観者として来伯中の英国 Oxford ブルックス大学穴井幸子氏ご持参の絵本に聴き入る受講者 5 名

**\*\*第1時「15漢字導入」ハンドアウト**

# welcome to kanjikreativ light

<https://www.kanjikreativ.com/kanjikreativlight032019.php>




**KK KanjiKreativ-Light**  
Dr. Y. Yamada-Bochynek

**EiJale** European Institute for  
Japanese Language Education  
ヨーロッパ日本語教育学研究所  
E.V., Resener Str. 14, 10555 Berlin BRD  
Steuer-Nr. 27/664/96070

**#1 Stunde Do, 24.01.19**

**JaFIX Die 1. Stunde mit der JaFIX-Methode**  
*Japanisch-als-Fremdsprache-mit-Integrativ-Kommunikativen Schritten*



**Ziele:**

- ① Einführung von 15 Kanji
- ② Jpn Namen: 山田、本田、林、大川、森田、森本、川本
- ③ Melodischer Akzent im Jpn – 3 „Patterns“

1. H-H    2. .H    3. H...

山田
本田
林
森
大山
大木
上田
下田
大森
山本

山木
大川
金田
小山
田川
田口
小森
花田
東

川本
森本
森口
金本
山川
花森
犬川
犬本
上川

(4) eLearning 教材 *KanjiKreativLight* (=KKL)

**KanjiKreativ** (以下KK)： 2003年国立国語研究所E-Japan学術助成支援を得て2005年に初版完成。制作チーム3名による：コンセプト＝本稿筆者；プログラミング＝Rainer Weihs；グラフィック＝小松夏美。同年ベルリン自由大学研究助成支援により、漢字自主学习ツール2.0版として完成。2005年以降同大学及び東京財団助成により6ヶ国語（独・日・英・仏・勃・

羅) 翻訳完成。2007年3月「革新性・高完成度」を理由に同大学E学習学長賞受賞。KKではアニメ・色彩など視覚情報群を基盤に全常用漢文字(当時1945字)から本稿筆者山田が抽出した最小構成要素「原子280字(2010年改訂2136字後1字「白」追加により281字)」を出発点に、認知学的学習法で、①漢文字の一般的構造(扁<sup>1</sup>-意符; 旁-音符)を、②「体系的」に③「短期間集中型」で日本語表記言語の情報処理法を獲得する。その効率性は独(大学・成人教育・高校)・英(大学)で実証済みである。

## 2.3 教材採択理由 (KKL 前身 *KanjiKreativ*)

筆者は、本講座デザインに当たり、基盤を自身の「第14回ドイツVHS日本語教師の会定例研修会 2005.3.12 発表分: JaFIX 式日本語教育: 認知学習的漢字教育を目指して “e-Learning Kanji Kreativ” 281 漢字素アニメから入る文字学習-制作理念・実践検証- パワポ発表 P.48-49」(図4)に置いた。(A)は、受講生のKKに対するコメントで、(B)は、ベルリン在住日本語講師の立場からの山田インタビューへの応答からである。

第14回ドイツVHS日本語教師の会定例研修会: 2005.3.12 山田.ppt 発表  
JaFIX 式日本語教育: 認知学習的漢字教育を目指して “e-Learning Kanji Kreativ” 281 漢字素アニメから入る文字学習-制作理念・実践検証-」パネル 48, 49

### (A) 或る「元VHS受講者」のKKに対するコメント

(KK 分子終了段階における「学習過程自己把握インタビュー」時。2005.1.31 植原ツエルナー久美子研修生記す)

#### 1) 大川 コメント

以前 VHS や独日協会 で日本語を習ったことがあるが、いずれも伝統的な Frontalunterricht だった。今回のようなグループでアクションをしながらの授業は新鮮で、楽しい。漢字は、以前のコースでは、最初は全く習わず、後の方で少し「書き、読み」を一緒に習うという方法で、先生から漢字カードを渡されて、ひたすら書いて覚えなさいと言われた。しかし、それでは、漢字をどうやって覚えたいのか、手がかりが掴めなかった (Ich hatte keinen Zugang zu Kanjis)。少し漢字アレルギーになっていたと思う。

そこで、以前に自分で「漢字 ABC」という本を買って読んだところ、漢字を Bausteine に分ける、という方法が載っていておもしろいと思っていた。KK はそれと同じ考え方であり、自分にとって非常によい方法だと思っている。ただ書いて覚えるよりも、漢字へのアクセスの仕方が分かり、新しく知的な漢字学習法だ。自分の漢字アレルギーも良くなった。

それに、ここでは授業の中で漢字について繰り返し習うので、本を見て独習するだけよりずっとよい。自分は覚えるのが早くないので、漢字素や分子を覚えるのに時間がある。しかし、1回のテストで100%できなくても、別に不安になったり、気にしたりはしない。日本語は楽しみで習っている。ただ繰り返し習うことが自分には大切だ。テストの時に分からない字が出て来た時は、漢字素に分けてみる。

歌やことわざのプリントを見て、新しい漢字があると、自分で漢字素に分解してみたり、家に帰って Hadamitzky の辞書 (これも 79 の部首システムを採用している) を見て意味を調べたりしている。

<sup>1</sup> 「扁」は当用漢字から外されて以来、現在では例えば「偏旁冠脚」というように漢字要素表出位置の「左側」を指すようになってきているが、本稿では元来の「扁」(JIS 第二水準)を使う。

## (B) 梅津由美子日本語教師コメント

(ベルリンVHS, 高校レベル, 日独センター[現行JaFIX初級講座として山田と平行にクラスを担当]、フンボルト大学などの日本語講座担当20余年のベテラン談 2005.3.5 山田記す・梅津氏承認済み)

### (1) 20年来ののジレンマ・問題意識・挫折感・絶望感

漢字一つへの負荷(形態、筆順、音・訓読み、送り仮名、熟語など)が多すぎて、たとえば高校を3年間受け持ち、300余の漢字を「勉強してください!」と「一方的に」指示を与え、それでAbiturをなんとか受けさせ、でも、「今年もだめだったな...」と送り出すときの、あの、なんとも言えない奈落に落ち込んでいくような、「挫折感、絶望感」...

### (2) 問題意識を抱えたままなのに、かと言って、解決法の見つからないもどかしさ

→ KK及びJaFIX方法論にて、初めて、燭光が見えてきた気がする。すでに、Wilmersdorf VHS 学習者、及び、カニジウス高校10年生に実施し始めているが、確かな手応え、あり!2年後には、検証結果が出せると思う!

追記:その後2005.3.8の報告では、VHSでの第一回「漢字素1・100テスト」の結果あり。8名のテスト参加者のうち、高校・大学生・社会人は90%以上のでき。社会人一人は25%。時間のなさもさりながら、従来の「漢字の習い方」に囚われすぎているもよう。つまり、KKの発想法を受容できる精神的柔軟性に欠ける?この方法は全くのゼロビギナーでやれば、おそらくはより成功すると思われる。その意味で、山田(さん)は、目下3名のJaFIX研修生にも学習者といっしょにテストしてもらっているが、あれは、まったく正しい。「旧式漢字学習法」に染められているという意味では、ネイティブ日本語教師が、一番手強いのだから!教師側がまず発想の転換をしなければ、この方法での効果的授業プロセス、つまり、「漢字素分析・意味統合理解」を、常に授業中に言及することが不可能なのだから!!!

図5: KKに対する受講者と日本語講師側からのコメント。(A) JaFIX(創始者筆者: *Japanese as a Foreign Language with Integrative-Communicative Steps* 統合的日本語教育法) 研修生植原のインタビュー応答から; (B) ベルリン在住 JaFIX 法採択日本語講師山田インタビュー応答から。

## 2.4 講座成立条件・クラス構成 2018年度及び2019年度

通常VHS外国語講座は8~12名を原則とするが、上述M. Behringer 部門長は、非欧州言語である日本語の特殊性に鑑み、6名までを容認する。2018年度は、上述(P.4)のように6名(成人4名、高校生2名)、2019年度現行クラスは、12名(成人6名;大学生4名;高校生2名)で始まっている。2018年度は、ベルリンでも全く初めての「漢字学習クラス開設」の試みであり、B部門長は開講に当たってそれなりの決断を要した。しかし、2度目の提供では、初めから12名の申し込みがあり、本講座第1時限に受講動機や講座開設の情報入手法を聞いてみると、ロコミ的な拡散からとの応えも少なからずあった。「脱日本語コンテストの文字学習」を受講理由にした成人もいる。本講座が、「漢文字の形態と意味のみの習得」を到達目標とすることを第1時限から改めて確認しておく。「読み」(漢字の音声化)とは、語彙学習であり、本講座では、「日本語表記法:漢字仮名交じり文」のうちの「漢字」の部分の習得するのが目的であると強調する。それであるならば、第1時限に日本人の苗字(「読み」)を習ったのは、「矛盾」ではないか?と鋭い質問をした受講生もいたが、筆者は一応「苗字は15漢文字で典型的に表記されるように、語彙として字形・意味を覚えて欲しいので、そこを突破口にしている」と応えた。

## 2.5 原子脳内刻印達成度の視覚化としての「原子テスト」と成績結果

図6は、「原子テスト#1—29字」の例で、受講生小森サビーネ100点満点の解答用紙である。原子の脳内刻印達成度を視覚化・意識化する一つの方策として、原子テストを実施

Berlin VHS CW KKL Kanji-Kurs 2019  
Kursleitung: Dr. Y. Yamada-Bochynek  
yoriko.yamada-bochynek@fu-berlin.de  
© Dr. Y. Yamada Bochynek 2018  
G-Test #1 Random-Reihenf.


Name: 小森 サビーネ Datum: 19年1月14日 ( )





**原子テスト Genshi-Test Nr. 1**  
(L1~L2.5, 0101-0224 : 29字/173字 Random-Reihenfolge)  
<https://www.vhsit.berlin.de/VHSKURSE/BusinessPages/CourseDetail.aspx?id=500513>



原子 Genshi	意味 Imi (Bedeutung)	意味		
		ドイツ語 Doitsu-go Deutsche-Sprache	ドイツ語 Doitsu-go Deutsche-Sprache	
1	自	Nase, ich ✓	16 辛	Fußabdruck ✓
2	頁	Gesicht ✓	17 ル	gelande Beine ✓
3	耳	Ohr ✓	18 也	Im Ar Leib ✓
4	手	Hand ✓	19 身	Körper ✓
5	ハ	pflüchende Hand ✓	20 子	Kind ✓
6	人	Mensch ✓	21 女	Frau ✓
7	大	groß ✓	22 母	Im Hr ✓
8	夫	Thema ✓	23 士	erwachsen Mann ✓
9	小	klein ✓	24 長	lang ✓
10	力	Kraft ✓	25 心	Herz ✓
11	目	Auge ✓	26 尸	Gesp ✓
12	寸	messende Pab ✓	27 骨	Obukörper ✓
13	又	unferam ✓	28 骨	Knochen ✓
14	足	Fuß ✓	29 欠	trauget haben ✓
15	口	Mund ✓		

Benoter\*inn: 上川 : (100 %)

Korrekt/19Aufgaben= Punkte

Korrekt: 19=100%: ~17=94%: ~15=83%: ~13=72%: 

 大家良くてきました Sehr gut  よくできました Gut  まあまあですね ma-ma-/sohale...  夜にはがんばりましょう

Demnächst (würde ich ganz gut sein ^^)  かなり弱かった...Ziemlich schwach...  全然ダメでしたわ。Ganz Schlecht. 2/15  
山田

する旨を第1時限「15漢字導入後」にクラスと話し合う。原子は全部で173項目を習うので、1週に45~50個ずつテストをし、4週間で終わる。テスト順は、学習順序で行くか、ランダムテスト順序で行くか?と問うと、大半が「ランダム順でなければ、本当に覚えたかどうかはテストできない」と応える。クラスの希望がそれであるなら、(学習順も用意するが)ランダム順のテストを

図6: 原子テスト#1。満点の記念に山田落款印を。それ以下は山田認印と日付のみ(笑)。これ以降、#2で40原子、#3で50原子、#4で54原子テスト、全173原子の脳内刻印達成度を見る。

翌週から始めるからと通告。第1回テスト#1は、5分で大体全員終了。回答をクラスで共有しながら、隣同士で相互に採点する。

図7と図8はそれぞれ2018年度と2019年度2月10日現在までのベルリンVHS漢文字クラスの出席者数と成績の関係を明記する「出席簿」である。

**Bezirksamt Charlottenburg-Wilmersdorf**  
**Abteilung Jugend, Familie, Bildung, Sport und Kultur**  
**Amt für Weiterbildung und Kultur**  
**Volkshochschule**  
**Japanisch - Kanji Schrifttraining light** 漢字 木後 Kursnr.: CW410-102 Kursleitung: Dr. Yamada-Bo  
**Teilnehmervertretung:**  
**Lehrstätte: Prinzregentenstr.**  
**Beginn: 20.09.2018 19:15:00** Terminanzahl: 10

Bitte beachten: Die Teilnahme pro Unterrichtstag durch Namenskürzel ist zu bestätigen. Bei fehlenden Angaben oder Verlust der Teilnahmeliste kann eine spätere Teilnahmebescheinigung nicht ausgestellt werden. Nach Kursbeendigung muss die Teilnahmeliste umgehend unterschrieben an die Volkshochschule zurückgesandt werden. TNB = Teilnahmebescheinigung (Bitte ankreuzen)

Nr.	Name, Vorname	BG-Nummer	20.09.	27.09.	04.10.	11.10.	18.10.	08.11.	15.11.	22.11.	29.11.	06.12.
1	Arellano Becker, Harvey	3418203283	✓	✓	✓	✓	✓	100	100	100	100	100
2	Eberstein, Petra	3418008130	✓	✓	✓	✓	✓	100	100	100	100	100
3	Haßlinger, Renate	3418010722	✓	✓	✓	✓	✓	100	100	100	100	100
4	Ost, Gabriele	3418007998	✓	✓	✓	✓	✓	100	100	100	100	100
5	Schultheis, Nathalie	3418011692	✓	✓	✓	✓	✓	100	100	100	100	100
6	Handschuh, Jiro (Schülerin)		✓	✓	✓	✓	✓	100	100	100	100	100
7												

図7: 2018年度受講生6名原子テスト#1~#4結果。

**Amt für Weiterbildung und Kultur**  
**Volkshochschule**  
**Japanisch - Kanji Schrifttraining light** Kursnr.: CW410-103 Kursleitung: Dr. Yamada-Bochynek, Yoriko  
**Teilnehmervertretung:**  
**Lehrstätte: Prinzregentenstr. 33-34, R. 406**  
**Beginn: 24.01.2019 19:15:00** Terminanzahl: 10

Bitte ausfüllen und unterschreiben

Bitte beachten: Die Teilnahme pro Unterrichtstag durch Namenskürzel ist zu bestätigen. Bei fehlenden Angaben oder Verlust der Teilnahmeliste kann eine spätere Teilnahmebescheinigung nicht ausgestellt werden. Nach Kursbeendigung muss die Teilnahmeliste umgehend unterschrieben an die Volkshochschule zurückgesandt werden. TNB = Teilnahmebescheinigung (Bitte ankreuzen)

Nr.	Name, Vorname	BG-Nummer	TNB	24.01.	31.01.	07.02.	14.02.	21.02.	28.02.	06.03.	13.03.	20.03.	27.03.	03.04.
1	Ambrosius, Octavia	3418206116	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
2	Hastigspuh, Jenny	3418203837	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
3	Hordan, Norbert	3419001385	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
4	Lando, Susanne	3419200213	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
5	Mackott, Gisela	3419001006	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
6	Rüsch, Sabine	3419200459	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
7	Schulte-Vogelheim, Gerswid Isabella	3419000185	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
8	Stingl, Michael	3419000999	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
9	Thiede, Anja	3418206063	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
10	Ost, Gabriele		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
11	Richter, Mathilde		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
12	Reinthaler, Silke		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
13														
14														
15														
16														

Die ordnungsgemäße Durchführung des Kurses mit insgesamt ..... Unterrichtseinheiten

図8: 2019年度原子テスト#1終了時



## 2.6 原子>造字法意識化>漢字文法力育成>日本語 L2 能力「漢字仮名交じり文テキスト」 解読力へ

本講座も究極的には L2 日本語話者が、漢字仮名交じり文で表記される日本語テキストを「解読」できるようになる能力を獲得することが目標である。よって、筆者は、第 6 時限で原子テスト #4 が終了した（全 173 テスト項目）クラスに対し、授業活動として、初級漢字 233 リスト（嶋田和子監修『漢字たまご』2013 凡人社、p. xvi）を習うのと併行して、これまでの「173 原子知識」で漢字を解読し、文意が通じるといふ「記号遊戯的楽しみ＝漢字文法」を授業の一環としようではないか、と提案した。クラスが賛成したので、筆者は、日本語界の「生材料」のテキスト領域から下記の 2 種を選ぶことにした。

(1) *NewsDigest* ドイツニュースダイジェスト No. 1086, 2018-11-16 版：毎月 2 回発行

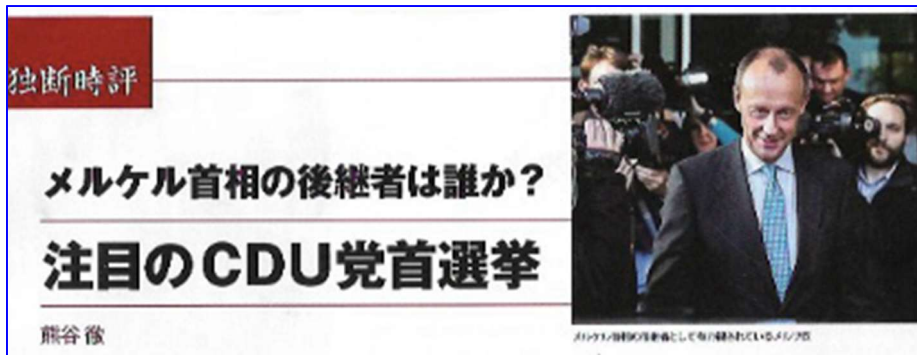


図 9：造字法意識化から漢字文法力育成へ

される大判 24 頁の本誌は、時事問題もそれなりに扱い、ドイツ社会事情に関する日本語訳・語彙を豊富に提供する。筆者がこの「記事」を選択した

のも、ちょうど CDU 党ドイツ・キリスト教民主同盟内でメルケル首相後継者候補 3 名がしのぎを削っているところで、クラスに記事を見せると内容を正しく推定した。「メルケル首相の、後継者は、誰か？、注目の、CDU 党首、選挙」の各漢語彙・熟語を取り上げて、漢字を一つずつ原子に分解し、なぞなぞを楽しむわけである。質問はただ一つ。「この漢字はどの原子からできているか？」各語彙のカタカナ部分は筆者が読み、格助詞、終助詞、連体助詞などの接尾辞のひらがな部分は簡単に説明した。以下に漢字文法力育成法の実例を挙げる。クラスが一つになり、あれやこれやと大声でわめきながら勝手放題な、しかしそれなりに創造性豊かなことを言い合って遊ぶのは実に楽しいものであった。

1. 「首・相」 首 **𠂔** + **自** = ? 鼻がまっすぐ前を向いてる→首・ヘツド  
 相 **木** + **目** = ? 木に向かってジューっと見てる→「パートナー」

2. 「後・継・者」 後 **行** + **糸** + **夕** = ? 糸のようにぶらぶらついて行く=後ろ  
 継 **糸** + **米** + **口** = ? 糸状に米粒が次々と連なって来る=後継ぎ  
 者 **土** + **ノ** + **日** = ? 土にシャツと寝て太陽がいっぱい！

3. 「誰」 誰 **言** + **隹** = ? 太つちよの小鳥が「あんた誰よ？」と言う→誰？

図 10 : 漢字仮名交じり文解読力をめざして

(2) 「俳句と漢字」 - 小林一茶の俳句から選ぶ

原子習得後、クラスが造字法へのチャレンジをし始めた 7 時限目、受講生の一人が、「数ならぬ身とな思ひそ玉まつり」を表紙に持つ『*Haiku: Gedichte aus fünf Jahrhunderten. Japanisch/Deutsch*』Klopfenstein, Eduard und Ono-Feller, Masami (2017) Stuttgart:

Übung #7: 俳句と漢字 Haiku mit Kanji 小林 一茶 Kobayashi Issa

かたつぶりそろそろ登れ富士の山  
 Katatsuburi sorosoro nobore fuji no yama.

Kleines Schnecklein, Du!  
 Besteige hin ganz langsam,  
 den Fuji-Berg!

lauf langsam,  
 du Schnecke, den Fuji-Berg  
 hinauf.

gang langsam,  
 du Schnegge,  
 de Fuji-Berg nuf.

Wat schwitzt de denn so,  
 Kleener Schneck,  
 der Berch looft dir nich wech!

Issa Kobayashi  
 HAIKU

図 11 : さらなる漢字仮名交じり文 (俳句) との接触を通して漢語彙を知る

Reclam を誕生日の贈物であったとしてクラスに持ってきた。クラスの成人女性達は文学全般に興味を持っているところから、日本の短詩型「俳句」も松尾芭蕉の「古池や蛙飛びこむ水の音」を通して知っている。筆者はそこで、教材として小林一茶の俳句の各句を日本学専門家数人ずつドイツ語に訳し、Kyōko Yanagisawa の切り絵画が各句を提示する『Issa Kobayashi HAIKU』(1981) Berlin: Ostasien-Verlag を使うことにした。図 11 は「かたつぶりそろそろ登れ富士の山」を、他にも「我と来てあそぶ<sup>(ママ)</sup>親のない雀」p. 64、「日本は這入口からさくらかな」p. 46、「猫の子のかくれんぼする萩の花」p. 78、「瘦蛙まけるな一茶是に有」p. 96、「是がまあつひの栖か雪五尺」p. 104 を資料として配布した。

## 2.7 KKL-App 早期開発は喫緊の課題

21 世紀も 20 年を過ぎようとする現在では、IT 時代の eLearning はもはやコンピュータ版だけでは不十分である。また、2019 年第 2 回目 KKL 講座で明確になったように、KKL をダウンロードしてもファイルそのものが開かないというケースも出てきて、筆者はデジタル移民世代とデジタル・ネイティブ世代との顕著な格差と対峙させられることもある。原子テストで脳内刻印度を自他共に可視化するのはなるほど一策ではあるが、やはり、日常交通機関を使つての移動中の車内で、「原子をアニメで習いたい」という受講生の声に一刻も早く応えたいと願う。

## 3. 成果

本実証授業により、KK および KKL の有用性が確認できた。また、既存の講座の中で目的の講座を開講する手順についても確認できた。また、アプリを併用した授業の実施方法についても確認できた。KKL のアプリの更新については、引き続きスポンサーを獲得する必要がある。スポンサーが獲得できた場合、この教材を日本語学校に向けて普及するための教師向け講座の開講が可能になる。スポンサー獲得の状況を見て、「授業力アップコース」の内容に、KKL に関する項目（文字のもと）を追加したい。

### (1) 漢字アプリの有用性

昨年度 KK を元にしたアプリ KKL を作成した。これを用いた授業を実施したが、円滑に利用できること確認した。KKL の実用性はある。

### (2) 開講手続き

既存の講座の中で、eLearning を併用した講座を開講するする場合、企画書をつくって開講を打診、受講費用設定、eLearning 教材を含んだ教材費の設定、eLearning が要求するコンピュータ環境の確認、開講の決定、講師との仮契約、受講生募集、受講生が最低催行人数を超えるか判断、開講の決定、講師との本契約、受講料徴収、開講の通知、開講という流れになる。この流れは、講座の枠組み構築フローにフィードバックした。

### (3) アプリを併用した授業の実施法

ドイツの成人学習者に対しては、日本文化への興味関心が高いこともあり、文学作品などを利用した知的な刺激で授業が維持できている。また、ドイツ人は論理に対する教育が行き届いており、原子の組み合わせから暗記文を編み出して漢字を覚えるという方法でも問題を生じていない。

ただ、昨年度からの課題である、漢字の造字法（原子の組み合わせで漢字の意味を解釈する）について、新たなブレイクスルーはこの実証授業からは得られていない。

### (4) 講師向け講座への示唆

同様の授業ができるようにするのであれば、研修講座の構築は可能である。造字法部分について、別途検討が必要である。

## 4. 造字法についての検討

本実証授業と並行して、山田ボヒネック委員と平岡委員長、平岡佳梨加委員とで、造字法に関して、代替的な方法がないか検討を加えた。その結果、造字法について、絵で表現することで、解決できる方法が見つかった。

また、非漢字圏学習者が漢字という象形文字を受け入れる際の抵抗感の軽減について、想像力を発揮して、原子にとらわれず漢字の表す意味から形を解釈するという遊びを積極的に取り入れ、そこから原子という部品に気づいてゆくというアプローチが有用であることを確認した。

## 4. 見出したこと

3. 普及活動および実証授業を通じて見出したものを整理する。

### 4. 1 ビデオコンテンツ型の限界と可能性

本事業では、利用が容易となっている動画（ビデオコンテンツ）に主として注目して eLearning の手段としてきた。制作や利用を通じて次のような限界と可能性を感じている。

#### (1) 受講側

- ・ Youtube などにアップすれば、場所や手段や通信量を問わずに視聴できる。
- ・ 5分（最大でも10分）しか見続けることはできない。
- ・ メモを取るには、LMS との組み合わせが必要

#### (2) 制作側

- ・ 質にこだわる場合、製作コストは決して安くない。
- ・ 模擬授業型の場合、授業の内容だけでなく、表情や背景、声や話し方など多くの情報が受講生に伝わる結果、動画の品質が気になり質にこだわりたくなる。
- ・ 質にこだわると、品質の維持・向上のために、授業の内容のチェックと、動画の質の向上ためにテレビ番組の収録のようなノウハウが要求される。
- ・ 質を追求しない場合、動画作成者の意図とは異なる見方のためのファシリテーションガイドが必要になる。
- ・ 日本語教師だけのノウハウで作れば、動画の質が上がらないため、一般公開には二の足を踏むことになる。結果として学内向けのコンテンツとなるが、学内の需要が十分でない場合はコンテンツは作られない。研修コンテンツの流通という目的が達せられない。
- ・ 低コストで質を維持するには、

方法：

極力 PPT + 音声の形にする

これにより、表情・服装・背景などを考える必要がなくなる

受講生を前にしてリアル講習を行いそれをコンテンツ化する

これにより、収録のための事前準備の量を減らすことができる

プロセス1：

日本語教師がビデオ教案をつくる

受講生に向けて試行し、反応をフィードバックする

日本語教師間でレビューして問題点を減らす

日本語教師であってかつ映像制作にも経験のある人が収録する  
セミプロレベルの編集者が編集する

プロセス 2 :

日本語教師が研修の教案をつくる

その際、収録後の編集のことを考えて PPT をつくっておく

受講生を相手に研修を行い、その状況をビデオで収める

収録されたビデオを講師がチェックし、編集シートに記入、PPT を更新する

セミプロレベルの編集者が編集する

- ・本来は、研修向けの Qiita やクックパッドのようなプラットフォームが必要。

### (3) 運営側

- ・講座や講義の管理と、ファイル群の管理が必要
- ・課金しない場合、LMS や動画用ストレージは、無料のものでも品質が実用に耐える
- ・課金する場合、Udemy などのプラットフォームがある。但し日本語教師の認知が低い

## 4. 2 授業力向上向け研修カリキュラムの原案

昨年度、研修ビデオを17本作成した。同様のものの量産を考えたが、文化庁事業の開始及び本事業の主旨を考え、その方向性は取りやめた。代わりに、すでに作成した研修ビデオを活用する方法について検討した。

### (1) 自校内利用

自校に必要な研修ビデオを自校で使うというのは、制作の目的通りのことであり、無論成立する。昨年度制作した研修ビデオの内、カイ日本語スクールと東京国際大学付属の制作のものは、それぞれの学内研修にて利用された。作った本人が利用して研修するので、利用方法なども説明が不要である。

また、我々の活動や発表に触発され、ヒューマンアカデミー日本語学校や別府大学日本語別科などでは研修用ビデオの作成が始まった。

### (2) 他校利用

昨年度制作した研修ビデオを各校で利用することを試みた。他校が作った研修ビデオは作った意図・使う意図が、利用する学校にとって必ずしも明確でなく、利用が進まないということに直面した。多数の研修ビデオがあれば、その中から自校の目的に適したものを見つけて使うということが可能である。しかし、限られた研修ビデオを活かして研修するという観点にたつと、その観点からの研修カリキュラムが必要であることに気づいた。

そこで、カイ日本語スクールにおける研修ビデオ活用の方法をヒントとして、平岡佳梨加委員がAMA日本語学校の教員研修において、昨年度制作した研修ビデオを利用して教員研修を行い、そこから研修カリキュラムを見出すこととした。以下述べるのが、見出された研修カリキュラムの骨格である。

#### a. 目的

- ・新人日本語教師の授業力をアップする。
- ・単に知識を得るだけでなく、人の授業から気づき自分の授業にフィードバックできるようにする。

#### b. 対象

- ・すでに教壇にたった経験のある日本語教師（420時間養成講座受講済み）
- ・経験時間数はまちまち。百時間程度から数千時間。文化庁基準の初任・中堅

#### c. コンセプト

- ・自分の授業に反映することを目的とする
- ・ひとそれぞれの気づきを尊重する
- ・研修ビデオで演じられる模擬授業は必ずしも完璧なものを見なさない
- ・授業見学に入る代わりに研修ビデオを見る

- ・研修ビデオを見て自らが気づくプロセスと、主任からポイントを指摘されるプロセスの両方を体験し、気づきを深める。見方が経験化できる、気づいた見方を実践してみる、実践できているか確認してもらう。これらにより、授業を見る目が養われ、同時に実践できるようになる。

#### d. 研修の実施方法

1回～3回目は集合研修、4回目は個人で学び直し講座の研修ビデオを見る。

集合研修において授業担当者は、ビデオ研修や他の講師たちのアドバイスから気づきを得、学習現場への往還を繰り返す。主任が指導した専任からのアドバイスを聞き、教え方をさらに膨らませつつ、並行して個人学習でビデオの学び直し講座から再び学びを得、授業改良を継続させる。

1回目   アイスブレイキング、出発点の共有

1. 模擬授業実施
2. 他の受講生&主任からのアドバイス⇒自らが気づきを得る
3. 授業実践

2回目   授業見学の代わりに研修ビデオを見る

1. 皆で研修ビデオを見る
2. 気づきシート記入⇒提出
3. 模擬授業実施
4. 他の受講生&主任からのアドバイス⇒気づきを得る

3回目   解説付きで研修ビデオをみて気づきを深める

1. 皆で研修ビデオを主任の解説付きで見る
2. 気づきシート記入
3. 授業実践

4回目   自らの授業実践をブラッシュアップする

1. 主任より受講生に教案シートと教案チェックシートを配布
2. 受講生は教案チェックシートに記入した後、教案を作成
3. 授業実践
4. 実践後、受講生は教案チェックシートに再記入し、主任と専任に提出(PC送信)
5. 実践後、受講生は教案を改良し、改良された教案を専任に提出(PC送信)
6. 提出されたものを専任がチェック
7. 専任はチェックし、それを改良した教案を主任に提出(PC送信)
8. 主任は確認後、教案について専任にフィードバック
9. 専任は教え方について受講生へアドバイスを5分間実施



10. 受講生は教え方について、研修ビデオを見て、さらなる授業改良を図る

e. 研修の円滑な実施のために

主任がこの研修を行うためのガイドブックが必要である。また、授業の実践の対象が「みんなの日本語」の場合、研修ビデオで示した授業のパターンに対応した非漢字圏学習者向けのモデル教案が必要である。これらを次年度作成する。

ア) 教案シート

「みんなの日本語」教案 初級Ⅰ第2版 課			
授業テーマ			到達度 学生 %教師 %
授業日:	年 月 日 ( )	午前・午後 コマ	授業者:
目的			
到達目標			
指導ポイント			
準備			準備物
時間	学習内容・活動		指導上の留意点
導入	分		
展開	分		
まとめ	分		

イ) 教案チェックシート

教案チェックシート    みん日Ⅰ・Ⅱ    課    氏名：			自己評価			
			3	2	1	0
1	授業テーマの理解ができている					
2	到達目標が適切である					
3	全学習項目において導入から練習までの流れが適切である					
4	時間配分が適切である					
5	導入					
	① 視点を変えた導入を複数準備している					
	② 理解の確認・発話をくみこんでいる					
6	発話					
	① 教師の発話に無駄がない					
	② 学生に十分な発話の機会を与えている					
7	練習					
	事前					
	① 応用の練習問題の準備ができている					
	② 想定される質問に対する対応準備をしている					
	教室活動					
	① ドリルが到達目標にリンクしている					
	② 練習内容が到達目標にリンクしている					
	③ 練習の指示や手順に無理がない					
	④ 応用力のある学習者が言った答えを肯定し、他の解答例として伝えられる					
	⑤ 学習者に対して答えられなかった質問をメモする					
	⑥ ⑤の答え（個別または次回）について教える時を伝えられる					
8	教授方法					
	本日の授業内容を理解させることができた					
			合計点			
授業終了時送信			yorikahiraoka@gmail.com		(#.^.#) 総合計点	
			CC:			

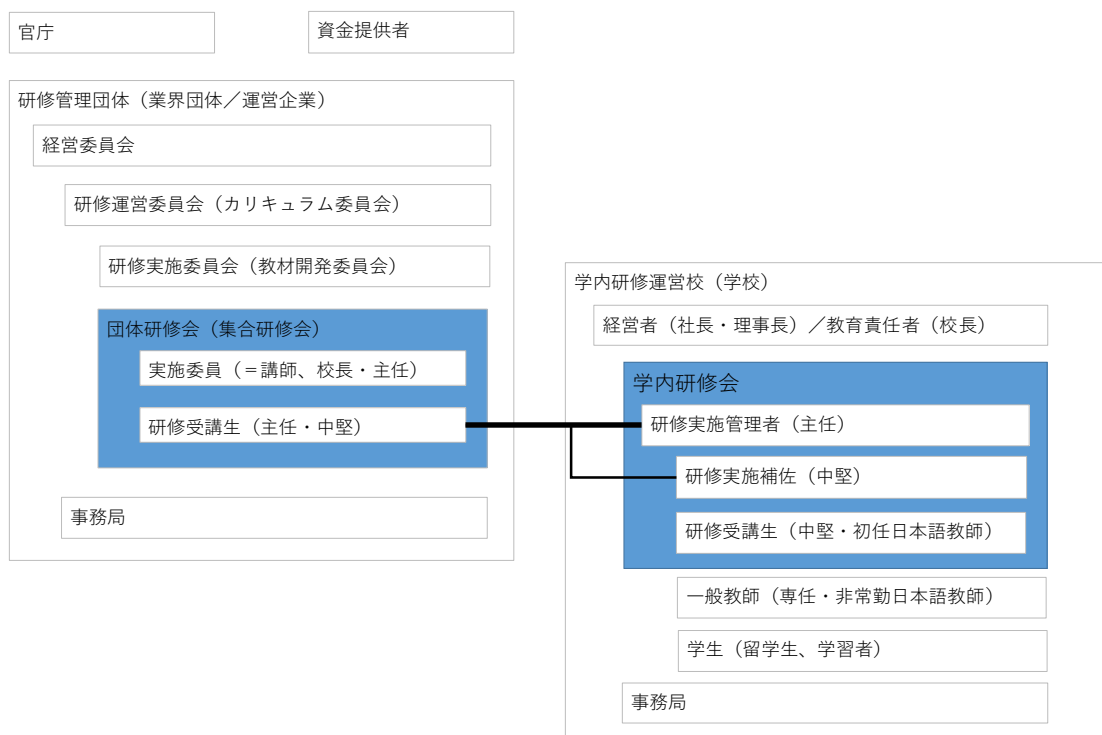
#### 4. 3 LMS 選定・LMS マニュアル

プラットフォームとしての安定性、継続的な機能向上、費用対効果を考えると、課金処理がなければ Google Classroom、課金処理をする場合は Udemy が有用であることがわかった。なお、昨年度有力としていた Edmodo は、3階層の管理モデルとなっていて高評価を与えていた。しかし、細部を検討すると最上位階層の権限をもつと下位階層のすべての中身を見ることができてしまう（教育委員会のような権限）。これは参加校の権限を犯しすぎるので Edmodo は不採用とした。

##### (1) 要件

講座の運営は、研修講座を管理する管理団体のレベルと、学内研修を運営する日本語学校のレベルの2層に分かれる。研修講座事務局は、システムやコンテンツの管理、各日本語学校等のフォローを行う。当座、事務局は幹事校におき、軌道に乗れば業界団体に運営を移管する予定である。各日本語学校内では、教務主任が中心となり受講を管理する。

当初は、極力簡単な運営システムとし、キラーコンテンツの制作を先行する。教師からコンテンツの反応がよく、また管理の煩雑さが顕著となれば、事務局部分をシステム化してゆく。事業の2年度目に判断し3年度目にシステム化を予定している。日本語学校等を経由せず、直接日本語教師にコンテンツ提供する運営モデルの必要性についても、事業の2年度目に判断し、必要があれば3年度目にシステム化する。



運営モデルおよび、管理システムの予見より、LMS に求められる要件を次の通り整理し

た。

a. 必要機能

- ・図書館のように、共通教材をおいておける場所
- ・各学校で教室がもてること
- ・教室（教員）の管理ができること
- ・Facebook または Gmail でログイン
- ・サービス連携（Youtube、Dropbox か GoogleDrive）
- ・できれば、独自ドメインと独自トップページがもてること

b. 管理上の制約条件

- ・できるだけコストのかからない、簡易なシステムがよい
- ・できるだけ存続可能性が高いシステムがよい
- ・課金管理はできればよいが、できなくてもよい
- ・コンテンツの売買ができればよいが、できなくてもよい

(2) LMS の選択

次の評価視点で、既存の LMS を選び、評価した。

- ・無料の LMS である
- ・すでにある程度実績のある LMS である
- ・システムエンジニアがいなくても管理できる
- ・メニューが日本語化されている
- ・専門家の協力が得やすい

結果として、課金処理なしの LMS として Google Classroom、課金処理ありの LMS として、Udemy を選択した。

a. 課金処理なし —— Google Classroom

Google Classroom は、2018 年 8 月に大幅バージョンアップがあった。「授業」ページが誕生し、授業コンテンツを維持できるようになった。それまでは、Twitter や Facebook のようなタイムラインしかなかったので、維持できなかった。

Google Classroom では、教師・生徒の 2 階層モデルが基本である。本事業が想定する研修管理団体・研修実施校（教師・生徒）という 3 階層のモデルではない。運用方法については、次年度検討を加える必要がある。

ア) デザイン一新について

Google の Classroom がデザインを一新、先生のための便利機能も

<https://jp.techcrunch.com/2018/08/08/2018-08-07-google-classroom-gets-a-redesign/>

新機能の概要

<https://support.google.com/edu/classroom/answer/6149237>

イ) Google Classroom の概要

簡易マニュアル (Qiita による)

<https://qiita.com/howdy39/items/005dff7fc9170a761ff8>

公式ガイド

<https://support.google.com/edu/classroom#topic=6020277>

ウ) Google Classroom の機能

ユーザー	Classroom の機能
教師	クラス、課題、成績を作成、管理できます。 フィードバックや成績の作成をリアルタイムで直接行うことができます。
生徒	授業と資料をあとで確認できます。 リソースの共有のほか、クラス ストリームやメールでのやり取りが可能です。 課題を提出できます。 フィードバックや成績を受け取ることができます。
保護者	生徒の学習に関する概要説明メールを受け取ることができます。この概要には、未提出の課題、提出期限の近い課題、クラス活動についての情報も含まれます。  注: 保護者は、Classroom に直接ログインすることはできません。別のアカウントを使って <a href="#">概要説明メールを受信</a> する必要があります。
管理者	ドメインの任意のクラスを作成、表示、削除できます。 クラスに対して生徒と教師の追加や削除を行うことができます。 ドメインのすべてのクラスの課題を確認できます。

## エ) Google Classroom のマニュアル

ハリウッド大学院大学による

### ・教師用

<http://highvalue.tokyo/wp/wp-content/uploads/teach-classroom-manu-pc.pdf>

<http://highvalue.tokyo/wp/wp-content/uploads/teach-classroom-manu-sma.pdf>

### ・生徒用

<http://highvalue.tokyo/wp/wp-content/uploads/stu-classroom-manu-pc.pdf>

<http://highvalue.tokyo/wp/wp-content/uploads/stu-classroom-manu-sma.pdf>

## b. 課金処理あり —— Udemy

Udemy は、2010 年に開始された、e ラーニングのプラットフォームを提供するサービスである。Udemy の主な特徴は、個人でも授業・講義の資料を用意すれば講師として発信することができること、有料授業に設定して収益を得ることが可能となっていることである。

資料は講義の様子を収録したビデオ映像の他に、パワーポイントや PDF などの文書資料でもよい。講義の内容は分野もレベルも様々であり幅広い。個人講師の中にも、Facebook の創業者であるマーク・ザッカーバーグや、元ゼネラル・エレクトリック経営者であり「20 世紀最高の経営者」とも称されるジャック・ウェルチのような、世界トップクラスの評価と実績を持つ経営者などが含まれている。

## ア) 概要

講師になりたい方へ: よくある質問

<https://support.udemy.com/hc/ja/articles/360003469994>

コース作成 (Teaching Center)

<https://teach.udemy.com/ja/course-creation/>

## イ) 講師になるためのハウツー

ユーデミー 最初のコースをリリースする前に知っておきたかったこと (非公式)

[https://www.udemy.com/masukawa\\_006/](https://www.udemy.com/masukawa_006/)

Udemy で無料コースを公開しプロモーションに活用する方法 - unofficial

<https://www.udemy.com/udemy-free-course/>

## (3) 今後の課題

Google Classroom では、教師・生徒の 2 階層モデルが基本である。本事業が想定する研修管理団体・研修実施校 (教師・生徒) という 3 階層のモデルではない。運用方法については、次年度検討を加える必要がある。

また、Udemy は、運営・教師・生徒の3階層モデルである。そのうえで、運営については Udemy が直営するスタイルである。業界団体が運営を行うことができない。運用方法については、次年度検討を加える必要がある。

#### 4. 4 開講手続き・実施と評価

開講に関しては、すでにある研修の中で実施する方法と、新たに研修を起こして事業化する方法がある。

##### (1) すでにある研修の中で実施する方法

すでに受講生が集まっており、研修を管理する体制があり、研修を実施する講師がいる場合、必要なことは、カリキュラムと教材の提供、そしてコミュニティの形成である。学内研修会での実施はこれにあたる。

但し、カリキュラムと教材の活用方法については、なんらかの研修が必要である。その研修の場を設ける必要がある。その研修の場についても、既存の場を活用することも可能である。日本語教師の学び直しの指導者研修として、

日本語教育振興協会の研究大会

同プレセッションやポストセッション

同様の日本語学校の業界団体の研修会

日本語教育学会の研究大会

学校主催の公開講座

出版社主催の公開講座

などの場が活用できる。

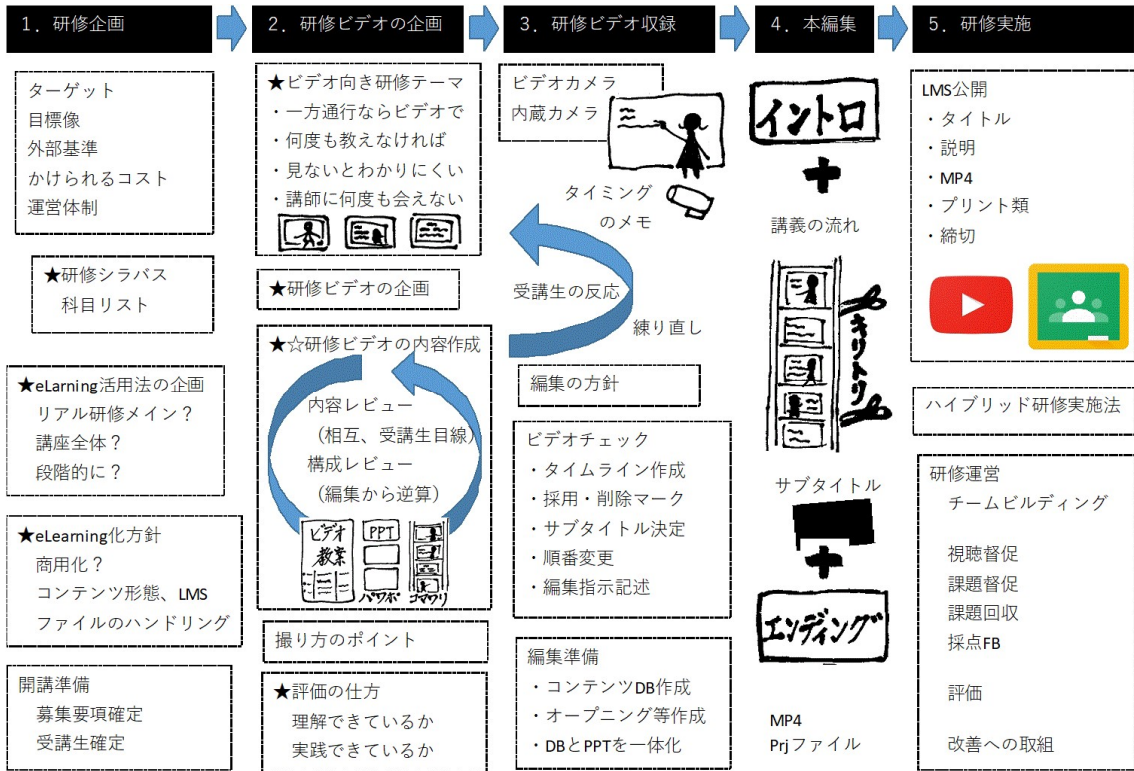
次年度の日本語教育振興協会の研究大会などにおいて、論文発表の他、研修実施の場を設けることができるよう働きかけているところである。

##### (2) 新たに研修を起こして事業化する方法

本事業のノウハウを活用して、本年度中堅研修の事業化を試みた（予算は事業外）。中堅研修の事業化を通じて、研修の事業化プロセスを実践し、継続可能な研修事業として進行中である。

企画の提案から実施の意思決定、受講生募集、受講生管理、講座の開発から講座の内容決定、講座の実施、LMSとの連動、講座の評価、講座の継続などに関し、様々な体験をさせていただいた。開講手続きや研修実施、研修の評価についてのエッセンスは、第2部の「講座構築手法の見える化報告」に反映した。そのアウトラインが次図（再掲）である。





## 4. 5 コンテンツガイドライン (改定)

「研修反転ビデオ」は、教授法などの要点を5分程度にまとめたビデオ(動画)である。研修に活かせる動画をより低コストで高品質に生み出せるよう、コンテンツガイドラインを改定した。

### 4. 5. 1 動画の企画の方針

#### (1) 模擬授業形式(スタンドアロン型)の研修ビデオ

- ・視聴者は日本語教師なので過度な品質は追求しない
- ・動画のデッドコピーではなく、考えて自分で授業を組み立てられる教師に育てる
- ・教案をセットにする、考えるポイントを動画上で繰り返す
- ・5分(本編4分40秒)以内を原則とする
- ・実技型、パワーポイント併用型など研修効果を考えて構成する

#### (2) 発表形式(スタンドアロン型)の研修ビデオ

- ・視聴者は日本語教師なので過度な品質は追求しない
- ・学会発表の要領で、PPTをもとに発表を行い、PPTと音声を中心に構成する
- ・論文や参考資料などを基礎とする
- ・5分(本編4分40秒)以内を原則とする
- ・実技への誘導、習熟のためのドリル訓練など研修効果を考えて構成する

#### (3) リアル研修メイン型の研修ビデオ

- ・視聴者は日本語教師なので過度な品質は追求しない
- ・研修の場において、講師が教壇に立って講義し、受講生がワークを行う
- ・研修の全体を収録し、その中の講義部分を残し、ワークは削除、価値ある発表は残す
- ・30分以内を原則とする、10分程度で分割することが望ましい
- ・ワーク部分で使うプリントなどを同時に提供できるように工夫

### 4. 5. 2 撮影の指針

#### (1) 模擬授業形式(スタンドアロン型)の研修ビデオ

- ・一番高度なテクニックが必要  
PPTの画面と、授業を実施する教師の姿の両方の撮影が必要  
発表形式の指針と、リアル研修メイン型の指針の両方を守る必要がある

#### (2) 発表形式(スタンドアロン型)の研修ビデオ

- a. MP4 で録画する。
  - ・ Zoom を使用し、PPT の画面を共有して録画する。
  - ・ Camtasia の PPT プラグインを利用して録画する。
- b. 注意事項
  - ・ 声：明確な発声で、はっきりと聞き取れる
  - ・ 音：雑音が入りにくいように
  - ・ 教材：PPT で作成する、必要に応じて Excel などを併用して切り替える

### (3) リアル研修メイン型の研修ビデオ

- a. MP4 で録画する。
  - ・ Zoom を使用して録画する、カメラを固定して撮る。
  - ・ 三脚でビデオカメラまたはスマホを固定して撮る。  
撮影後にデータを PC に取り込む。
- b. 室内で撮影  
室内に学生がいる前提(学生がいる場合でも、できるだけ先生のみを撮影する)
- c. 上半身を撮る  
服装は出来るだけ一色・名札なし
- d. 注意事項
  - ・ 声：明確な発声で、はっきりと聞き取れる
  - ・ 音：雑音が入りにくいように
  - ・ 教材：はっきり見える(効果的であれば教材をアップした画面があっても good!)
  - ・ ライト：暗いライティングでない
  - ・ 背景：ホワイトボードまたは黒板。余計なものが写り込まないように
- e. リアル研修メインの場合の追加注意事項(模擬授業型の場合は不要)
  - ・ 講義の骨格を示す PPT は作っておく
  - ・ 講義の冒頭で、講義の流れのシートをつかって流れを説明する
  - ・ 撮影後にビデオを見直して編集指示するので、頭出ししやすいようにシーンタイトルを PPT に作っておき、PPT を進めながら講義する
  - ・ 講義中に配布するプリント類も PPT に貼り付けておく

#### 4. 5. 3 編集の指針

##### (1) 日本語教師がすべき編集の準備（主として、リアル研修メイン型について）

###### a. 基本方針

- ・できるだけ短くする 理想は5分から10分。  
無理ならシリーズ化し、それぞれをが最大5分から10分になるよう分割する。
- ・初めに全体像がわかるようにする
- ・進捗がわかるようにする
- ・内容がある部分を残す
- ・雰囲気伝える部分を残す

###### b. 内容の判断

- ・受講生が理解するのに必要な骨格のところ
- ・繰り返しになっている部分は削除してよい
- ・ワークは削除
- ・発表やQAはよいものだけ残す
- ・セキュリティ上問題があるものは削除

###### c. 講義上の効果（このレベルのものは講師が指示しないと無理）

- ・強調したいところ
- ・切り替わりを示したいところ

###### d. 効果（このレベルのものは本編集にまかせる）

- ・明るさの調整
- ・咳払いなどの削除
- ・間の調整

##### (2) ビデオチェック（主として、リアル研修メイン型について）

編集方針をもとに講師がビデオをチェックし、ビデオ編集用にPPTを改定、編集シートを作成。

###### a. タイムライン作成（シーン分割）

- ・メモと画像を元にシーンに分ける
- ・何分何秒から何分何秒まで 内容は何

###### b. 採用・削除マーク

- ・メモと画像を元に
- ・残すものと捨てるものを決める

###### c. シーン決定

- ・シーンに番号をつける
- ・シーンごとにタイトルをつける
- ・PPTに「シーンタイトルスライド」を追加する

- ・ PPT に「シーン番号」を追加する
  - ・ 配布プリントがあるときは「配布プリントスライド」を追加する
- d. 構成
- ・ 必要に応じて、シーンの順序を変える
  - ・ PPT の順序を入れ替える
  - ・ PPT の講義のはじめに「流れを示すスライド（講義の流れ）」を追加する
- e. 編集指示記述
- ・ 「編集シート」に編集時の指示内容を書く
- 例えば、
- このセリフを削除
- 画面を PPT に差し替えなど
- ・ 必要に応じて効果を指示
- 例えば、
- このタイミングで画面のこの部分を強調
- ・ 「編集シート」、PPT、配布プリントを提出

### (3) 一番単純な編集方法

トリミング（不要箇所のカット）だけなら OS の内蔵ソフトでできる。  
Windows 10 の「フォト」アプリを使う。

具体的な方法：

Windows 10 「フォト」アプリで動画編集

<http://snow-white.cocolog-nifty.com/first/2017/11/windows-10-bb03.html>

Windows10 動画のトリミングもフォトで OK!?! 【お手軽フォト】

<https://tkn-kan.com/2017/02/01/893/>

### (4) 高度な編集方法

パワーポイントと動画のミックス、効果音の挿入、吹き出しの挿入などの編集には高度な編集ソフトが必要。

動画編集ソフト「Camtasia」を使う

<https://www.techsmith.co.jp/camtasia.html>

使い方：

公式チュートリアル

<https://www.techsmith.co.jp/tutorial-camtasia.html>

簡単な使い方

<http://mommyxx.net/camtasiastudio-2-112>

有料講座

プロじゃなくても 6 日間でプロレベルの動画を作成  
6 日間でマスター！ カムタジアスタジオ使い方講座  
<http://oshibizi.com/camtasia/lp/>

(5) 本編集の指針

- ・間延びさせず、テンポよく画面を切り替える
- ・効果音を入れる
- ・必要に応じ、パワーポイント部分にナレーションを入れる
- ・ナレーションは早口で
- ・決めゼリフ・重要事項は文字でも強調する

4. 5. 4 共通フォーマット

(1) 企画に関して

a. エントリーシート

エントリーシート		日本語学校等の日本語教師のための学び直し講座の企画・実施	
学校名(正式名称)			
学校No.			
担当:氏名			
No.	学習レベルN	内容	要点
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

b. 研修シート

研修シート		日本語学校等の日本語教師のための学び直し講座の企画・実施		
No.		タイトル		
学校 No.		学校名(正式名称)		
学習レベルN		担当:氏名		
		出演者:氏名		
		撮影日付		
内容				
動画URL				
TIME	使用物	T	S	POINT
0 00				
4 40				
(9 40)				



c. 編集シート

編集シート		日本語学校等の日本語教師のための学び直し講座の企画・実施			
No.		タイトル			
学校No.		学校名(正式名称)			
学習レベルN		担当:氏名			
		出演者:氏名			
		撮影日付			
内容					
動画URL					
TIME	指示	No	シーントル	概要	備考
0 00					

削除  
残す

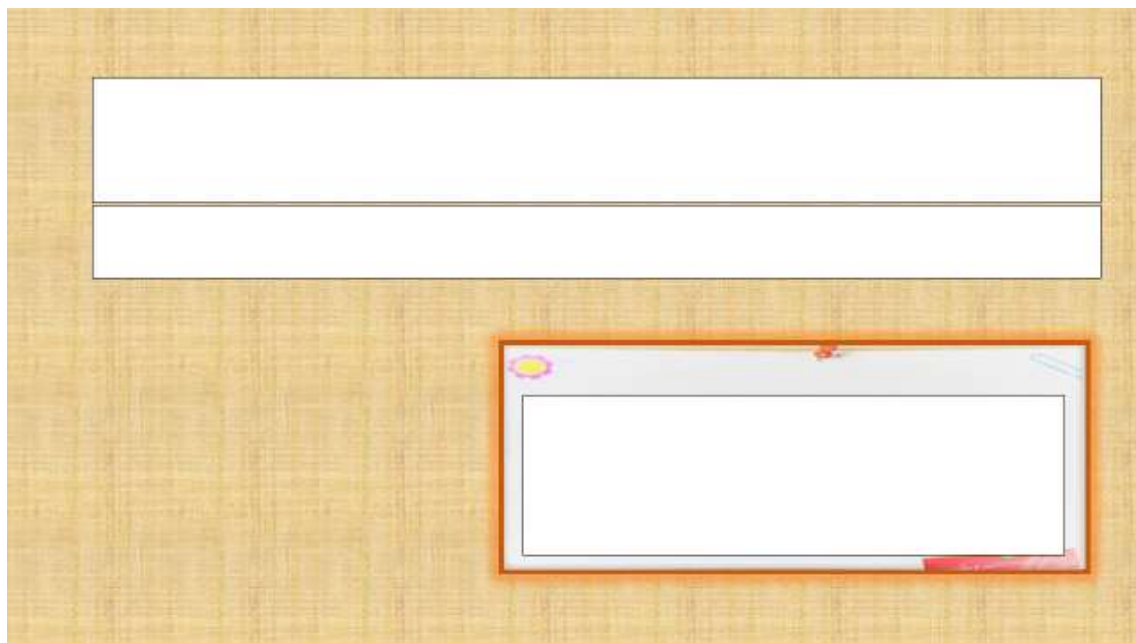
(2) 動画編集に関して

a. オープニング

①講座タイトル

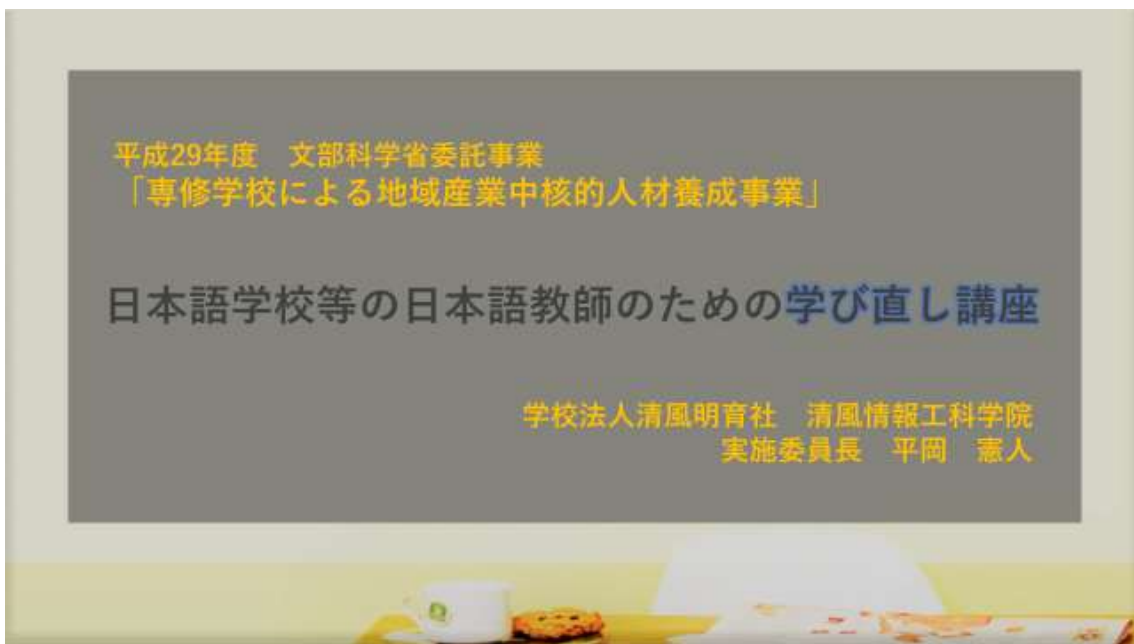


②ビデオタイトルと講師の紹介



b. エンディング

①運営に関する表示



②協力校のバナー表示



c. 効果音

以下のタイミングで効果音を入れる

- ①「講座タイトル」  
ファンファーレ
- ②「講座タイトル」から「ビデオタイトルと講師の紹介」へ  
拍子木
- ③「ビデオタイトルと講師の紹介」からビデオ本編へ  
ページをめくる音
- ④ビデオ本編から「運営に関する表示」へ  
ハーブの音
- ⑤「運営に関する表示」から「協力校のバナー表示」へ  
ページを閉じる音

## 5. 次年度の課題

次年度以降に残された課題について整理する。「日本語教師の学び直し講座」の開始に向けて、次年度にすべきことを整理する。

### (1) ホームページの構築

「日本語教師の学び直し講座」のホームページを開設する。  
またここから、LMS へリンクする。

### (2) LMS の構築

「授業力アップ」コースについて、GoogleClassroom 上にコンテンツを登録する。  
Udemy の運用性の確認。必要に応じて Udemy にコンテンツを登録。  
運用マニュアルの作成。

### (3) 残る教材の整備

- ・「授業法の改善方法に気づき」についてのファシリテーションガイド
- ・「初級教科書のうまい教え方」についてのカリキュラムの更新
- ・「初級教科書のうまい教え方」についてのファシリテーションガイド
- ・「初級教科書のうまい教え方」についてのビデオコンテンツ 2 本
- ・「初級教科書のうまい教え方」についての全課教案、評価方法
- ・「学習者中心の教授法」についてのカリキュラムの更新
- ・「学習者中心の教授法」についてのファシリテーションガイド
- ・「学習者中心の教授法」についてのビデオコンテンツ 2 本

### (4) 管理体制の整備

- ・参加校管理
- ・受講生管理
- ・コンテンツ管理の中間データベース（ファイル管理、作業管理）
- ・コンテンツガイドラインへの知財管理のガイドラインの追加

### (5) 実証講座の実施

- ・「授業法の改善方法に気づき」 2 校
- ・「初級教科書のうまい教え方」 2 校
- ・「学習者中心の教授法」 2 校

付録 日本語教師のための学び直し講座  
研修シート 2018 シート

日本語教師のための学び直し講座リスト 2017					
学校	タイトル	内容	正式学校名	担当	出演者
Ka	1 導入パターン①「場面→意味→かたち」	導入パターン① 「場面→意味→かたち」では、その表現を使う場面や話題を例として示すことで意味の理解につなげるやり方。変形や文型のルールなどの説明はその後に行う。ここでは「可能形（可能動詞）」を使って導入の例を示す。 動画URL <a href="https://youtu.be/uGa-YGrM_Q">https://youtu.be/uGa-YGrM_Q</a>	カイ日本語 スクール	大山 シ アノ	大山 シア ノ
	2 導入パターン②「意味→かたち→場面」	導入パターン② 「意味→かたち→場面」では、場面を例示することでは伝わりづらい抽象的な概念や意味をまず先に取り出して説明するやり方。文型の理解や使用場面の理解はその後で行う。ここでは「あります・ありません」を使って導入の例を示す。 動画URL <a href="https://youtu.be/q-XeehYLF7U">https://youtu.be/q-XeehYLF7U</a>			
	3 導入パターン③「かたち→意味→場面」	導入パターン③ 「かたち→意味→場面」では、まずは文型の構造に焦点をあてて導入をするやり方。これは既習項目から発展させた文型の導入や、使用場面を限定しない叙述的な文型の導入に適している。ここでは「とき」を使って導入の例を示す。なお、既習項目として「(名詞)のとき」があり、その発展的な使い方についての導入となる。 動画URL <a href="https://youtu.be/M-sel-9m_Jw">https://youtu.be/M-sel-9m_Jw</a>			
At	1 ウタカラ て形うた 1-a ます形	歌を使った、動詞の「て形」導入。ポイント①て形を勉強する1か月前から歌う②学生には、て形導入とは伝えない。③歌詞は見せず、教師との掛け合いで歌う。④教師は、口をしっかりと開けて歌う。⑤て形の課で活用表を渡す。⑥学生が歌い終わったら、ほめる。 動画URL <a href="https://youtu.be/1xafhJV5nbw">https://youtu.be/1xafhJV5nbw</a>	ATOWA	平岡 佳 梨加	いもりん
	2 ウタカラ て形うた 1-b 辞書形	歌を使った、動詞の「て形」導入。ポイント①て形を勉強する1か月前から歌う②学生には、て形導入とは伝えない。③歌詞は見せず、教師との掛け合いで歌う。④教師は、口をしっかりと開けて歌う。⑤て形の課で活用表を渡す。⑥学生が歌い終わったら、ほめる。 動画URL <a href="https://youtu.be/Wzm-nnalzHI">https://youtu.be/Wzm-nnalzHI</a>			いもりん
	3 ウタカラ て形うた 1-c ます・辞書形	歌を使った、動詞の「て形」導入。ポイント①て形を勉強する1か月前から歌う②学生には、て形導入とは伝えない。③歌詞は見せず、教師との掛け合いで歌う。④教師は、口をしっかりと開けて歌う。⑤て形の課で活用表を渡す。⑥学生が歌い終わったら、ほめる。 動画URL <a href="https://youtu.be/ji-i0QHFYpI">https://youtu.be/ji-i0QHFYpI</a>			いもりん
	4 ウタカラ ②チェツェッコリ	初日の授業に、「動きと歌」で学生達とうちとけあう。ポイント①学生は起立する。②教師の動きと歌をまねる。③教師は自分の動きを練習しておく。④教師も学生と楽しんでみる！⑤学生達に、ともにほめ合う関係性をつくらせる。 動画URL <a href="https://youtu.be/Klrkx6QtgHQ">https://youtu.be/Klrkx6QtgHQ</a>			いもりん
	5 ウタカラ ③あわうた	来日後の1か月間、日本語の母音と子音を掛け合いで歌いひびきあう。ポイント①音をきかせる。②歌詞は、みせない。③一音、一音、丁寧に歌う。④母音を意識し、長めに発音する。⑤ききあい、ひびきあい、ゆっくりとうたう。 動画URL <a href="https://youtu.be/oB0D2pcYKWY">https://youtu.be/oB0D2pcYKWY</a>			平岡憲 人・佳梨 加
Yo	1 て形定着のための口頭練習	初級文法「て形」（ます形からて形へ）導入後の口頭練習。板書計画含む。活用を定着させる口頭練習のキューの準備とキューを出すタイミングについてまとめた。 動画URL <a href="https://youtu.be/ZnzS20f0jdY">https://youtu.be/ZnzS20f0jdY</a>	学校法人石 川学園 横 浜デザイン 学院	影嶋 知 香子	影嶋 知香 子
	2 漢字の書き方一ひらがなとカタカナの組み合わせでー	非漢字圏学習者向け漢字指導法。漢字の書き方をひらがなやカタカナ、既習漢字を使って指導する方法を紹介する。ハードルを下げて繰り返し練習するモチベーションアップを目指す。 動画URL <a href="https://youtu.be/jm5C6Wx6XAM">https://youtu.be/jm5C6Wx6XAM</a>			
	3 語彙を覚えるのはゲーム感覚で	主に初級クラス向けの活動。学習者にとっては楽しく、教師にとっては文型導入の前に語彙をしっかりと定着させるための活動である。みんなの日本語第8課を例にして活動を紹介する。 動画URL <a href="https://youtu.be/JhPWww0h4OM">https://youtu.be/JhPWww0h4OM</a>			

Tk	1	授業前の準備	授業に臨む前に準備すべきことを知る。 教案を書く前と書いた後に、対象クラスについてや学習項目、教え方等について、どんなことを準備しておいたらいいか、具体例を示す。	東京国際大 学附属日本 語学校	肥田野 美和	肥田野 美 和
		動画URL	<a href="https://youtu.be/XSoRV1hGJTw">https://youtu.be/XSoRV1hGJTw</a>			
	2	ドリルの仕方のポイント	文型導入後の口頭ドリルのポイントを知る。 所在文「NはPにあります」と存在文「PにNがあります」を一例に、ドリルの仕方のポイントを示す。所在文・存在文・位置詞は導入済みとする。			
		動画URL	<a href="https://youtu.be/HZUfirqzHJI">https://youtu.be/HZUfirqzHJI</a>			
	3	中級文型の導入	初級修了直後の学生を対象とした中級文型の導入方法を知る。「Nについて」を一例に、N3文型を導入するやり方を示す。			
		動画URL	<a href="https://youtu.be/WxJzDPP08Y8">https://youtu.be/WxJzDPP08Y8</a>			
Ku	1	みんなの日本語会話の進め方 (一例)	みんなの日本語の会話の授業の基本的な進め方を第19課を例に説明する。研修前などに見てもらえれば、流れは、つかめるのではないだろうか。使用する機材が多いので、手際の良さも必要になる。	専修学校 久 留米ゼミ ナール	大和 佐 智子	大和 佐智 子
		動画URL	<a href="https://youtu.be/b5ZrpIE6eUU">https://youtu.be/b5ZrpIE6eUU</a>			
	2	ウォーミングアップ～メリッ トと話題抽出について～	授業の頭5分程度を利用し、頭の準備体操を行ってから授業に入ると、学生たちも授業を聞く体制になる。そのウォーミングアップのメリットと話題の選び方を説明し、模擬授業を入れて説明している。			
		動画URL	<a href="https://youtu.be/F-pmCNyBLf0">https://youtu.be/F-pmCNyBLf0</a>			
	3	教材研究の重要性	教材研究で教える軸を定める重要性を再度確認する。導入も例文も教える軸を定めなければ考えることができないはず。授業がうまくいかない根本の原因を問う。			
		動画URL	<a href="https://youtu.be/xq4dzeaXfBY">https://youtu.be/xq4dzeaXfBY</a>			



日本語教師のための学び直し講座 2018							
学校	タイトル	学習者のレベル	目的	内容	正式学校名	担当	
At	1	マイ漢字ーkanji danceー	初級	漢字	漢字の形への抵抗を減らした漢字の書き方の練習。はらい、まげ、はね等を身体や空書きを使い習得。	ATOWA 清風情報工科学 院	平岡佳梨加 平岡憲人
	2	脳内漢字かな変換	初級・中級	漢字	母語と漢字の形、日本語と漢字の形、発音と漢字の形、書く動作と漢字の形。これらを相互に変換できるようにする理論。		
	3	初級からの漢字教育	初級	漢字	漢字の形への抵抗を減らし、意味と読みを結びつける練習。筆ペンを使用し、とめ、はらい等は空書きや身体を使い習得。既習漢字を使い、教師と会話するような作文を短時間で書き提出。		
	4	漢字教育における初級と中級の違い	初級・中級	漢字	初級では、訓読みの語彙が多く、中級では音読みの熟語が多い。このことから初級と中級では漢字学習の方法が異なる。初級は訓読みと漢字の形、中級は音読みと熟語の音（オン）である。		
	5	発音指導（アンドロイドメソッド他）	初級	発音	発音における母語の影響を最小限にする為にいったんロボットやアンドロイドのように話させる。その上で拍やアクセント、イントネーションを入れ直す方法。		
	6	イメージマップ	初級	発表 作文	語彙マップを応用した発話・作文能力の育成。表現したいことを図のようなイメージマップで示した上で日本語で口頭発表やその応答をしたり、作文化したりする。		
	7	トピック発表①	初級	作文 発表 ディクテーション	発表をしてフィードバックを得、対応する。発表の簡単なメモを取り質問をする。伝えること、聞き取ることの訓練。		
	8	トピック発表②	中級	作文 発表 ディクテーション	他者のフィードバックを得、伝えることばに改めるくせをつける。発表のメモ取り質問をローテーションにして繰り返す。最後は感想を発表する。この繰り返しから、伝えることばへの気づきを得る。		
	9	聞いて書く読解	中級	ディクテーション 読解	ディクテーションを応用した耳からの脳内漢字かな変換の訓練。文章を聞き取り漢字かな交じり文に変換し、理解する。読解は個人・グループ・全体の3段階で確認する。		
	10	N2これだけ漢字	中級	漢字	使用頻度の高い漢字熟語を、効率的に学習するドリル練習。漢字熟語の意味を理解し覚えた後、授業内テストで定着確認。テスト後、自分で答え合わせをし授業内で再度、覚える。		
	11	異文化空間アクティビティー モノづくりー	初級・中級	コミュニケーション 作文 マナー	自分のコミュニケーション能力に気づき、学習課題を知る。異文化の中でことばの活動（課外活動）に取り組みワークシートや振り返り文を書く。		
	12	異文化空間アクティビティー 即興演劇ー	初級・中級	コミュニケーション 作文 マナー	自分のコミュニケーション能力に気づき、学習課題を知る。異文化の中でことばの活動（大学生との即興演劇）に取り組みワークシートや振り返り文を書く。		

日本語教師のための学び直し講座 2018							
学校	タイトル	学習者のレベル	目的	内容	正式学校名	担当	
ILP D	1 口頭練習の重要性	初級	理論	学習者共通の望みである会話力の養成には何が必要を考え、口頭練習の重要性を解説する。	岩崎言語教育プログラム開発 ILPD	岩崎美紀子	
	2 口頭練習の技術(1) 拡張ドリル(1) 基礎	初級	ドリル訓練技術	拡張ドリル(基本) : 「"DOG"は日本語で何と言いますか」という表現を使い、短く区切った表現を、3回繰り返しながら徐々に長くしていく方法と、キューを出すタイミングを練習する。			
	3 口頭練習の技術(1) 拡張ドリル(2) 応用	初級	ドリル訓練技術	拡張ドリル(応用) : 応用として、指示棒の使い方、学習者を飽きさせず、無理なく大量の口頭練習を行う方法を練習する。			
	4 日本語の数字のしくみ	初級	理論	数字は必修項目であるが、日本語の数字は音の変化が多く覚えるのが難しい。日本語の数字のしくみと、4・7・9、それぞれ二通りの読み方の使い分けについて解説する。			
	5 3桁・4桁の数字のしくみ	初級	理論	3桁・4桁の数字を例に、数の表現(数字・助数詞など)のパターン化について詳しく解説する。			
	6 口頭練習の技術(2) 変換ドリル(1) 3桁の数字の教え方	初級	ドリル訓練技術	パターン化された3桁の数字の教え方を具体的に練習する。この方法は、4桁、助数詞の教え方にも応用できると同時に撥音・促音の指導法としても使える。			
	7 口頭練習の技術(2) 変換ドリル(2) 【ます⇒ません】の教え方	初級	ドリル訓練技術	「ます」を「ません」に変えることによって否定の表現を作ることができる。この変換の教え方を具体的に練習する。この方法は、少しアレンジするだけで【ます⇒ました】など他の文末変化の指導にも応用できる。			
	8 会話力の鍵は？	初級	理論	会話力を身に付けるためには「ます・ますか・ません」など、質問し、質問に答えるための文末変化の習得が最も大切であること、学ぶべき文末変化の全体像について解説する。			
	9 口頭練習の技術(3) 文末変化導入ドリル(1) 動ますか?・はい、動ます	初級	ドリル訓練技術	動詞文の文末変化のうち、質問の「ますか」と肯定の答え「ます」を習得させるためのドリルを具体的に練習する。			
	10 口頭練習の技術(3) 文末変化導入ドリル(2) 動ますか?・いいえ、動ません	初級	ドリル訓練技術	動詞文の文末変化のうち、質問の「ますか」と否定の答え「ません」を習得させるためのドリルを具体的に練習する。			
	11 動詞文のしくみ	初級	理論	動詞文のしくみについて、助詞の使い方について、会話の流れのなかで起こる助詞の変化について解説する。			
	12 口頭練習の技術(4) 代入ドリル	初級	ドリル訓練技術	主として「～を 食べます」を使って、助詞の使い方を教えるときに使うドリルを具体的に練習する。			
	13 口頭練習の技術(5) Q & A ドリル(1)	初級	ドリル訓練技術	主として「～を 食べます」を使って、情報のついた文を使った会話のうち、「はい、食べます」「いいえ、食べません」のようなシンプルな答え方、質問の仕方をマスターさせるためのドリルを具体的に練習する。			
	14 口頭練習の技術(5) Q & A ドリル(2)	初級	ドリル訓練技術	情報のついた文を使った会話のうち、「はい、～を食べます」「いいえ、～は食べません」のような情報を繰り返す答え方、質問の仕方をマスターさせるためのドリルを具体的に練習する。			
	15 口頭練習の技術(5) Q & A ドリル(3)	初級	ドリル訓練技術	「いいえ、～は食べません」という答えを受けて発展する疑問詞のついた質問「何を食べますか」の答え方と質問の仕方をマスターさせるためのドリルを具体的に練習する。			
	16 口頭練習の技術(6) 語彙導入ドリル	初級	ドリル訓練技術	「本・時計・新聞」を例に、必修の語彙をマスターさせるためのドリルを具体的に練習する。この方法は曜日の名前、日付(1日～10日)などの語彙にも応用できる。			